

—小学生の本のリスト—



で・あ・い 2

西東京市図書館



## 「で・あ・い 2」を手にしてくれたお友だちへ

西東京市図書館では、「すいせん図書」「ドキドキわくわく1ねんせい号」「ドキドキわくわくあたらしい本」などを作り、小学生のみなさんにいろいろな本をしょうかいしています。みなさんもたくさんのお本を読んでくれていることでしょう。

たのしい本、感動する本、知らなかったことを発見する本などをしょうかいした「で・あ・い」・「で・あ・い 2」で、あなたのまだ知らない、さまざまな本に出会ってください。そして、読んで感じて考えて、すてきな毎日を歩んでいってほしいと思います。

.....

## 保護者の方へ

『西東京市教育計画』では、子どもが社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせ、どのような未来を創っていくのかを、自ら考え、判断、行動していく力、すなわち、「生きる力」の育成に取り組んでいます。『西東京市子ども読書活動推進計画』において、子どもたちがこの「生きる力」を身に付けていくためには、読書活動が果たす役割は大きいと考えます。読書を通じて、子どもは言葉を獲得し感性を磨き、論理的思考を育て、表現力や創造力を豊かなものにします。

西東京市図書館は子どもたちの読書活動の支援の一環として、平成24年にすすめ本の紹介リスト「で・あ・い」を発行しました。今回、その後発行した「すいせん図書」や、その他リストなどを基に、児童サービス担当司書が選書し、続編として「で・あ・い 2」を作成しました。このリストが、子どもたちの読書環境への手助けとなることを願っています。

## もくじ

### 1・2年生

|                   |         |
|-------------------|---------|
| えほん .....         | 3 - 10  |
| よみもの .....        | 10 - 19 |
| せんそう・へいわのほん ..... | 19 - 22 |
| ちしきのほん .....      | 22 - 24 |

### 3・4年生

|               |         |
|---------------|---------|
| 絵本 .....      | 25 - 29 |
| 読み物 .....     | 29 - 39 |
| 戦争・平和の本 ..... | 39 - 42 |
| 知しきの本 .....   | 42 - 46 |

### 5・6年生

|               |         |
|---------------|---------|
| 絵本 .....      | 47 - 50 |
| 読み物 .....     | 50 - 60 |
| 戦争・平和の本 ..... | 61 - 64 |
| 知識の本 .....    | 64 - 68 |

## あかいほppetた

ヤン・デ・キンデル 作 野坂悦子 訳  
光村教育図書

さいしょはなんでもないことからはじまった。わたしがトムのほppetたをゆびさして「へんなの、まっかだよ」っていった。そのうち、みんなでトムのことをからかうようになってしまった。わたしははやくおわってほしい、トムといっしょにあそびたいとおもっていたけど、みんなのまえではいえなかった。

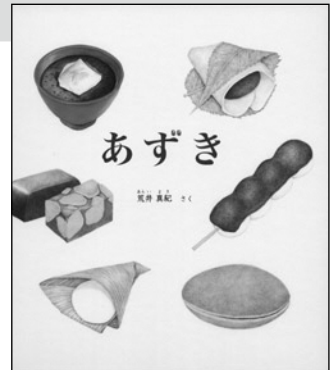


## あずき

荒井真紀 さく  
福音館書店

おいしそうなたいやきのおなかのなかには、「あんこ」がはいています。「あんこ」をよくみると、つぶがあります。このつぶのしょうたいは、「あずき」というめです。

「あずき」が「あんこ」になるまでのひみつを、さぐりましょう。



## あたし、うそついちゃった

ローラ・ランキン さく せなあいこ やく  
評論社

ルースは、がっこうのやすみじかに、こうていでちっちゃなカメラをひろった。とてもすてきなカメラで、ルースはおよろこび。このカメラは、ともだちがおとしたものだったけど、じぶんがおたんじょうびにもらったカメラだと、うそをついてしまった。さて、ルースはほんとうのことをいえるかな。



## あれあれ？そっくり！

今森光彦 著  
ブロンズ新社

あれあれ？はっぱかな？かれはかな？こえだかな？そっとちかづくとみえてくる。むしたちの、めやあしや、はねのもよう。しぜんのなかで、かくれるのがとてもとくいな、むしたち。あんまりかくれんぼがじょうずなので、おどろいてしまう。

そんなむしたちのすがたを、きれいなしゃしんでしょうかいしています。



## おじいちゃんのもうふ

ミュリエル・ブロック 文 ジョエル・ジョリヴェ 絵  
ふしみみさを 訳  
光村教育図書

ジョセフがうまれたとき、したてやをしているおじいちゃんのおくりものは、てづくりのすてきなもうふでした。おおきくなって、もうふがきたなくなってもいつもいっしょ。おかあさんがすてたのをひろって、うわぎにしたてなおしてもらいました。



## 300年<sup>ねん</sup>まえから<sup>つた</sup>伝わる とびきりおいしいデザート

エミリー・ジェンキンス 文 ソフィー・ブラッコール 絵  
横山和江 訳  
あすなろ書房

ブラックベリーをつぶして、ホイップクリームとまぜ、ひやしてつくるとってもおいしいブラックベリー・フル。300年、200年、100年くらいまえ、そして、

なん年かまえのイギリスとアメリカで、それぞれの時代の4つの家族が<sup>かぞく</sup>つくるブラックベリー・フルのお話。れいぞうこ<sup>つく</sup>がなかったころの、つめたいデザートの作りかたは？



## すごいね! みんなの<sup>つうがくろ</sup>通学路

ローズマリー・マカーニー 文 西田佳子 訳  
西村書店

学校は楽しいですか? せかいには、学校に行きたくてたまらないのに、行けない子どもがたくさんいます。また、学校へ行くことができて、川を歩いてわたったり、高いがけをのぼったり、たいへんな通学路があります。

この本は、世界中の子どもたちが通学する姿をとらえた写真絵本です。



## せかいいちおいしいスープ

マーシャ・ブラウン 文・絵 こみやゆう 訳  
岩波書店

はらぺこの3にんのへいたいは、あるむらで、たべものをわけてほしいとたのみました。でも、むらびとたちにはことわられてばかり。そこでへいたいたちは、いしのスープをつくるといいました。それをきいたむらびとたちはびっくり。いったい、どんなあじがするのでしょうか? フランスの民話をもとにしたゆかいな絵本です。



## だいすきなもの -ネパール・チャウコット村のこどもたち-

公文健太郎 写真  
偕成社

みんなのすきなものを、おしえてくれますか。ネパールの首都カトマンズから峠を一つこえた先にあるチャウコット村のこどもたちが、「すきなもの」をおしえてくれました。「ぼくは土がすき」「おどること、うたうこと、勉強すること、書くこと」「ひこうきがすき」「地面がすき」いろいろなものがすきな子どもたちの写真えほんです。



## チュンチエー 中国のおしょうがつー

ユイ・リーチョン 文 チュ・チョンリャン 絵  
中由美子 訳  
光村教育図書

おしょうがつのあさ、あつあつ<sup>タンコエン</sup>の湯圓をたべると、  
ガチツとかたいものがはに<sup>は</sup>あたりました。なんと、  
こううんのコインが、わたしの湯圓のなかにはいっ  
ていました。わたしは、こううんがにげないように、  
コインをポケットにしまいました。



## つなみてんでんこ はしれ、上へ！

指田和 文 伊藤秀男 絵  
ポプラ社

2011年3月<sup>がつ</sup>11日、もうすこしで5じかん  
め目がおわるところに、あのじしんはやってき  
た。ゆれがすこしおさまったとき、こえがきこ  
えた。「つなみがくるぞ！」。

“つなみ てんでんこ” みんなはたすけあいな  
がら、上へ、上へ、はしった。



## てんぐのそばまんじゅう

深山さくら 作 長谷川義史 絵  
ひさかたチャイルド

じいさまとばあさまは、あるはるの<sup>ひ</sup>日、みねざ  
くらのふといえだが<sup>おお</sup>おれて、大きなやつ<sup>み</sup>でのはっ  
ぱがおちているのを見つめました。その日からて  
んきがおかしくなり、なつになってもちっともあ  
つくなりません。はたけのやさいもそだちません。  
こまっていたあるばん、なんとふたりのいえにてんぐがやってきました。



## てんごくのおとうちゃん

長谷川義史 作  
講談社

おとうちゃんとおもいでは、たくさんある。キャッチボールをしてくれたこと、ウクレレをかってきてくれたこと、おかあちゃんはかってくれないホットドックをかってくれたことなど。ぼくは、てんごくにいつてしまったおとうちゃんに、おてがみをかいたんだ。



## えほん とうきょうえき たんけん絵本 東京駅

濱美由紀 作画  
小学館

東京駅<sup>い</sup>に行ったことはあるかな。日本<sup>にほん</sup>の陸<sup>りく</sup>の玄関口<sup>げんかんぐち</sup>だよ。開業<sup>かいぎよう</sup>したのは1914年<sup>ねん</sup>（大正3年<sup>たいしやう</sup>）。今<sup>いま</sup>から110年<sup>まへ</sup>も前のこと。今はたくさん<sup>でんしゃ</sup>の電車<sup>でんしゃ</sup>が到着<sup>とうちゃく</sup>したり、出発<sup>しゅっぱつ</sup>したりしていて、28もホームがあるんだって。東京駅のひみつを、かみなりくんが案内<sup>あんない</sup>してくれるよ。



## ネルはいぬのめいたんてい

ジュリア・ドナルドソン ぶん サラ・オギルヴィー え  
福本友美子 やく  
BL出版

ネルは、はながよくきくいぬのめいたんてい。どんなじけんも、たちまちかいけつ。ネルがだいすきなのは、ほんのにおい。げつようびは、かいぬしのピーターとがっこうにほんをよみにいく。ところがあるひ、きょうしつのほんがぜんぶなくなった。くん、くん！たいへん、これはじけんだ！



## バナナのはなし

伊沢尚子 文 及川賢治 絵  
福音館書店

バナナをれいぞうこでひやしたら、いっしょうかんご、くろくなった！きいろいバナナのかわにつまようじで字をかいてみたら、くろく字がうきあがってきた。なんでかな？おいしくてふしぎなバナナのひみつがわかるおはなしです。



## ふたりはバレリーナ

バーバラ・マクリントック 作 福本友美子 訳  
ほるぶ出版

ちいさなエマもおおきなジュリアも、バレエがだいすきです。あったことはありませんが、よくにているふたり。エマは、あさおきてバレエのレッスンにでかけます。ジュリアも、あさおきてバレエのレッスンへむかいます。エマはレッスンのあと、げきじょうへバレエをみにいくのですが、ジュリアはなにをするのでしょうか？



## プールのひは、おなかいたいひ

ヘウォン・ユン 作 ふしみみさを 訳  
光村教育図書

わたし、プールのひは、おなかがいなくなる。さいしょは、プールにはいることができなかった。こんどは、あしをバタバタすることができた。だんだんできることがふえてきた。にがてなプールがすきになってくるおはなしです。



## ぼくはなきました

くすのきしげのり さく 石井聖岳 え  
東洋館出版社

5じかんめ、こんどのさんかんぴにはっぴょうするために「じぶんのいいところ」をカードにかくことになりました。ぼくは、みんなのいいところはたくさんおもいだせるのに、じぶんのいいところはかんがえてもみつかりません。ぼくにはいいところがないのかな、となみだがでそうになりました。じぶんのいいところにきづくお話です。



## やま 山のとしょかん

肥田美代子 文 小泉るみ子 絵  
文研出版

山の中で、はたけしごとをしながら、ひとりでくらしているおばあさんがいました。ある日、おいしいにいれておいたなつかしいえほんをみつけ、はたけしごとのあいまに、こえをだしてよむようになりました。そしてそれを、だれかがきいていることに気がつきました。



## ゆうかなうしクランシー

ラチャー・ヒューム 作 長友恵子 訳  
小学館

クランシーが生まれたとき、パパとママはとってもがっかりした。だって、自分たちは<sup>じぶん</sup>胴<sup>どう</sup>のまわりが白いシロオビ・ギャロウェイ族の牛なのに、クランシーはまっ黒<sup>くろ</sup>だったから。なかまはずれにされてそだったクランシーは、シロオビもようをつけようと、いろいろためしてみた。



## わたしのそばできいていて

リサ・パップ 作 菊田まりこ 訳  
WAVE出版

わたしは、みんなのまえて、<sup>こえ</sup>声をだして本をよむ  
こくごのじかんが、きらい。わたしがつかえたり  
すると、みんながクスクスわらう。ある<sup>どようび</sup>土曜日、マ  
マはわたしをとしょかんにつれだした。としょかんの  
テンブルさんに「このおへやのわんちゃんに本を  
よんでくれる？」と、いわれた。ひきうけたけど、うまくよめるかな。



## わらう

浜田桂子 作  
福音館書店

ぼくはにいちちゃんとのにらめっこで、いつもわ  
らってしまう。あるひ「あしたはぜったいわらいま  
せんように」とおまじないをした。つぎのひ、ぼく  
ははじめてにらめっこに、かった。うれしかったけ  
ど、へんなんだ。いちにちじゅう、みんながぼくの  
ことをしんぱいしていた。わらわないおまじないが、ずっときいていたみたい！



## あひるの手紙

朽木祥 作 ささめやゆき 絵  
佼成出版社

ほんまち<sup>しょうがっこう</sup>小学校に、ふしぎな手紙がとどきまし  
た。ふうとうのおもてには「いちねんせいのみん  
なへ」、さしだしにんは「たなかけんいち」。びん  
せんには「あひる」とだけ<sup>か</sup>書いてありました。「た  
なかけんいち」さんは、みんなと<sup>ぶんつう</sup>文通がしたくて  
この手紙を書いたのです。そこで一年生のみんなは<sup>へんじ</sup>返事を書くことにしました。



## 一さつのおくりもの

森山京 作 鴨下潤 絵  
講談社

クマタは、「かいがらのおくりもの」というえほんが大好きです。「きみは、えらいね。」クマタはそと、えほんの中のキツネの子にはなしかけました。だって、キツネの子は、いちばんすきなかいがらを、ともだちにあげたからです。「ぼくだったら、いくらなかよしでも、できないよ」クマタはそうおもいました。



## おかわりへの道

山本悦子 作 下平けいすけ 絵  
PHP研究所

二年二組のりょうた先生は、給食のとき、あまったごはんでおむすびをにぎってくれます。かすみは一回でいいから、先生のおむすびを食べてみたいと思っていました。でも、おむすびはおかわり用で、はやいものがち。食べるのがおそいかすみには、かんたんなことではありません。かすみのおかわりへのちょうせんがはじまります。



## おまじないのてがみ

赤羽じゅんこ 作 石井勉 絵  
文研出版

おまじないをかんがえたことある？ ユズちゃんのおばあちゃんによると、おまじないのことばは、へんてこで、いみがめちゃくちゃで、いいやすいのが いいのだとか。ユズちゃんもためしてみることにしました。



## サイアク!

花田鳩子 作 藤原ヒロコ 絵  
PHP研究所

はるやす 春休みがおわって今日から三年生になったあたし。  
クラスがえでなかよしの、みきちゃんは二組、あたし  
いちぐみは一組。べつべつのクラスになってしまっがっかり。

みきちゃんは同じクラスになったユカちゃんといつ  
もいっしょにいて、あたしとあそぶおちなくなった。クラ  
スがかわっても、なかよしだと思っていたのに。



## しゅくだいさかあがり

福田岩緒 作・絵  
PHP研究所

なつやす 夏休みのしゅくだいはさかあがり。でも、ぼくはなん  
ど一度やっても一度もできない。ぜんぜんできなくて、れ  
んしゅうにつきあってくれるさとしにも、どなってし  
まった。もう、さかあがりなんてできなくていいと  
おもったけれど、公園で男の子たちがあきらめずにセミ  
をつかまえるのを見て、もう一度やってみた。



## すずちゃん

さえぐさひろこ さく ひろかわさえこ え  
佼成出版社

ある日、よわったすずめを見つけたようちゃん。  
うちにつれてかえってエサをあげたり、うたをうたっ  
てあげたり…いっしょうけんめいお世話をします。そ  
とでくらすとりは、うちのなかではかえないとわかって  
いるのですが、あまりのかわいらしさに、すずめが  
げん気になっても、はなれたくなくなってしまう。



## なぞかけときじろう

もとしたいづみ 作 国松エリカ 絵  
岩崎書店

江戸時代、長屋にすむ町の人たちの間では、なぞなぞで対決する『なぞかけ大会』が大流行。特に、とけない「なぞなぞ」はない、という評判の少年「なぞかけときじろう」は子どもから大人までみんなの人気者です。ある日、そんなときじろうのところへなぞなぞのてがみがきます。それが、事件のはじまりでした。



## にわとり城

松野正子 作 大社玲子 絵  
こぐま社

びんぼうでのろま、けれど、こころのやさしいむすこ。それから、やせたちっちゃなめんどり。いえも、たべるものもなくなったので、たびにでたふたり。そのとちゅう、まっくらやみとおそろしいまものが、おそいかります。まものとのなぞなぞたいけつに、むすことめんどりはかつことができるのでしょうか？



## ねこの手かします

内田麟太郎 作 川端理絵 絵  
文研出版

「ねこの手もかりたい」ということばをきいたことはありませんか？「ねこの手や」はそのなまえのとおり、いそがしいときなどに、ねこの手をかしてくれるかいしゃです。おちゃとまんじゅうのみせ「ねこのひるね」で「ねこじたまんじゅう」とたのむのがあいことば。どんなおきゃくさんがくるのでしょうか？



## はじめてのゆうき

そうまこうへい 作 タムラフキコ 絵  
小峰書店

としおは、すご<sup>お</sup>くうれしかったときやおこるときに、岡山<sup>おかやま</sup>べんになるお父<sup>とう</sup>さんがだいすきだ。でも、そんなお父さんにもかくしていることがある。それは、学校<sup>がっこう</sup>でなかまはずれにされていることだ。ある日<sup>ひ</sup>としおは、ゆうきをだしてクラス<sup>ひ</sup>のみんなにさげんだ。くちからとびだしたことば、それは岡山べんだった。



## ぼうけんはバスにのって

いとうみく 作 山田花菜 絵  
金の星社

ぼくは二年生。毎年<sup>に</sup>夏<sup>ねんせい</sup>休みには、ねえちゃん<sup>まいとしなつやす</sup>とやまなしのばーちゃんちへ行くのだが、今年<sup>い</sup>は、ねえちゃん<sup>ことし</sup>がじゅくのため、ひとりで行くことになった。こうそくバスのていりゅうじょには、ばーちゃんがむかえにきてくれる。じゅんぴはかんぺき<sup>い</sup>！でも、だんだん<sup>いちにち</sup>ふあんになってきた。夏休みのある一日のものごたり。



## みてても、いい？

礪<sup>は</sup>みゆき 作 はたこうしろう 絵  
ポプラ社

いたずらずきのきつねを、まいにち、「みてても、いい？」とやってくる、ひっこみじあんのうさぎ。さいしょ、きつねは、じーっとみてくるうさぎを、じゃまくさいとおもっていました。でも、いつのまにか、うさぎがくるのが、きつねはなんとなくたのしみになっていました。



## みてろよ！父ちゃん！！

くすのきしげのり 作 小泉るみ子 絵  
文溪堂

ぼくは、運動会<sup>うんどうかい</sup>のときようそうで一番<sup>ばん</sup>になれるかもしれないのに、父ちゃんは大工<sup>だいこく</sup>のしごとでみにきてくれない。「がんばってもしかたない。」そうおもっていたけど、前の日<sup>まえ</sup>の夜<sup>よる</sup>、父ちゃんがぼくのために、やってくれていたことがあった。それがきっかけで、ぼくはときようそうで一番になるやくそくを父ちゃんにしたんだ。



## アンナのうちはいつもにぎやか -アンナ・ハイビスカスのお話-

アティヌーケ 作 永瀬比奈 訳 ローレン・トビア 絵  
徳間書店

アンナはアフリカにすむ女<sup>おんな</sup>の子<sup>こ</sup>です。かぞくはおとうさん、おかあさん、ふたごの弟<sup>おとうと</sup>、おじいさん、おばあさん、おじさん、おばさんとたくさんのいとこたち<sup>まいにち</sup>。毎日とてもにぎやかです。ある日<sup>ひ</sup>、かぞく5人だけでカヌー<sup>りょこう</sup>にのって旅行に出かけましたが、だんだんさみしくなってきました。



## イースターのたまごの木

キャサリン・ミルハウス 作・絵 福本友美子 訳  
徳間書店

キリスト教<sup>きりすと</sup>で、春<sup>はる</sup>をいわうおまつり「イースター」。イースターの日<sup>ひ</sup>、ケイティとカール、そしていこたちは、おばあちゃんのいえで、イースターうさぎがかくした、たまごさがしをはじめます。

たのしい「イースター」の日のことがよくわかる、とても古いおはなしです。



## カテリネッタとおにのフライパン イタリアのおいしい話ー

剣持弘子 訳・再話 剣持晶子 絵  
こくま社

おににとどけるドーナツを食べてしまった女の子や、パン  
でできた、ほんものそっくりの女の子のお人形。たましい  
とひきかえに毎日ごちそうが食べられるようになった男…  
食べものにまつわる、イタリアの昔話が4つはっています。  
この夏はゆかいでちょっぴりこわい昔話をたのしんでみ  
ませんか？



## きれいずきのマグスおばさん

イーディス・サッチャー・ハード ぶん 小宮由 やく  
クレメント・ハード え  
大日本図書

ある土よう日、スージーのいえにマグスおばさんがやつ  
てきました。おばさんはとてもきれいずきで、まず、スー  
ジーの顔や手をふき、ようふくもきがえさせました。いっ  
しょにどうぶつえんにいってもサルやシロクマがよごれていると、きになります。  
きれいずきなおばさんのたのしいお話です。



## さかさ町

F. エマーソン・アンドリュース 作 小宮由 訳  
ルイス・スロボドキン 絵  
岩波書店

リッキーとアンが、ぐうぜんやってきた「さかさ町」。  
そこでは、何もかもがさかさにした！ かんぱんの文字や、  
家の屋根もさかさ。お店のものはただで、お年よりはあ  
そんでこどもがはたらきます。ごはんを食べる順番も、デザートが先で、おかず  
やスープが後。ふうがわりでたのしいさかさ町を、いっしょに冒険しませんか？



## サンタクロースのはるやすみ

ロジャー・デュボアザン ぶん・え 小宮由 やく  
大日本図書

きせつははる。でも、サンタクロースのすむほつきよくは、まだいちめんゆきでおおわれています。つめたいかぜとゆきにあきたサンタクロースは、町にはるの花を見にいくことにしました。クリスマスじゃないのにサンタが町にいたらおかしいので、おしのび(しょうたいをかくす)で、出かけることにしました。



## しろいいぬ？ くろいいぬ？

マリオン・ベルデン・クック 文 光吉夏弥 訳  
池田龍雄 絵  
大日本図書

ワググルズはやどなしのしろいこいぬです。あるひ、ひろったあおいぼうしをくわえていたら「どろぼう！」といわれて、いぬとりにおいかけてられてしまいます。せきたんのはこにかくれたワググルズは、なんとまっくろなこいぬになってしまいました。



## たんけんクラブ シークレット・スリー

ミルドレッド・マイリック ぶん 小宮由 やく  
アーノルド・ローベル え  
大日本図書

うみべにすむビリーのいえに、マークがとまりにきました。ふたりがすなはまにむかうと、みどりいろのビンがおちていました。中(なか)にはいていたのはてがみでしたが、さかさまにしてみたり、右や左にまわしてみたりしても、よめません。あんごうのようです。いっしょになぞをといてみましょう。



## ハリーとうたうおとなりさん

ジーン・ジオン ぶん 小宮由 やく  
マーガレット・ブロイ・グレアム え  
大日本図書

ハリーのいえのおとなりさんは、うたをうたいます。そのえがたかくて大きいので、ハリーはなんとかしてやめさせようします。おとなりさんのまどの下でほえたり、うしのなきごえやおんがくたいのえんそうをきかせたり。でも、うまくいきません。あるひ、うたのコンテストが行われることになりました。



## ふたごのカウボーイ

フローレンス・スロボドキン 文 小宮由 訳  
ルイス・スロボドキン 絵  
瑞雲舎

ふたごのネッドとドニーは、にわでカウボーイごっこをするのが大好きです。ある日、ドニーが「きょう、ぼくは、カウボーイのステーキになる」といい、「じゃあ、ぼくは、カウボーイのジムだ」とネッドがこたえました。こうしてふたりは、おたずねものや、どうぶつを見つけに、にわから、とおりへでていきました。



## わたしのおかあさんは世界一びじん

ベッキー・ライアー ぶん 光吉郁子 やく  
ルース・ガネット え  
大日本図書

はたけでつだいをしていたワーリャは、むぎばたけのなかですやすやひるね。目をさますと、おかあさんのすがたがみえません。大泣きのワーリャは、おかあさんのことを聞かれ「わたしのおかあさんは世界一びじん!」とこたえました。びじんのおかあさんを、みんながさがしてくれます。



## わにのはいた

マーガリット・ドリアン ぶんとえ 光吉夏弥 やく  
大日本図書

どうぶつえんにいるわにの<sup>あり</sup>アリは、はいたでよるもねむれません。ようすをみにきたえんちょうせんせいがいいました。「きみは、やっぱり、はいしゃさんへいかなくちなるまいね。」<sup>ばす</sup>バスにのってはいしゃさんにいくことになったアリですが、じつははいしゃさんがこわくて、とてもいけそうにありません。



## おはじきの木

あまんきみこ 作 上野紀子 絵  
あかね書房

日本が<sup>にっぽん</sup>戦争をしていたとき、「にれの木」<sup>いくさ</sup>の下でおはじきをしながら、ひとりでおかあさんと弟をまっていたかなこ。でも、かなこはこの木の下で、<sup>おとうと</sup>死んでしまいました。戦争がおわってから、おとうさんが「にれの木」をたずねてきました。



## カイくんのランドセル

おかしゅうぞう 作 ふじたひおこ 絵  
佼成出版社

カイくんはもうすぐ1ねんせい。おじいちゃんとおばあちゃんが、おいわいにランドセルをかってくれることになりました。つぎのひ、まちにいくと、おじいちゃんとおばあちゃんは、いろんないろのランドセルにびっくり。こどものときランドセルがなかったふたりは、「こんなのがほしかった」とおもいました。



## せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ

間瀬なおかた 作・絵  
ひさかたチャイルド

1936年3月に生まれたでんききかんしゃ『イーエフ・ゴジュウゴ・イチ（EF551）』。かおがにているので、『かば』とよばれるようになりました。やがて、日本がせんそうをはじめると『かば』もしゅうげきをうけ、からだはあなだらけになりました。

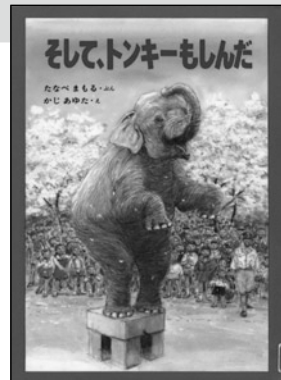
いまも『てつどうはくぶつかん』にいる、『かば』のおはなしです。



## そして、トンキーもしんだ

たなべまもる ぶん かじあゆた え  
国土社

もう、なん年もなん年もまえのおはなしです。うえのどうぶつえんの三とうのぞうは、とてもにんきものでした。しかし、せんそうがながびくうちに、どうぶつたちのえさがたりなくなってしまい、ぞうたちをころさなければならなくなりました。



## だっこの木

宮川ひろ 作 渡辺洋二 絵  
文溪堂

わたしは、浅草のかんのんさまのけいだいにたっている、いちろうの木。ある日、ちいさなカズヤはおとうさん、おかあさんとさんぽにきて、三人で手をつないでわたしをかこみ「おおきな木をだっこしたね」とよろこんだ。それから、だっこの木とよばれるようになった。おとうさんが兵隊にいく日、三人は「また、いつの日か三人で…」とわたしをしっかりとだっこしてくれた。



## だれのこどももころさせない

西郷南海子 文 浜田桂子 絵  
かもがわ出版

せんそうをしない。せんそうをさせない。そのため、たくさんのひとがきめたことがあります。せんそうのりゆうをつくらないこと、せんそうのどうぐをつくらないこと。みなさんにも、せんそうをしないためにきめられることがきっとあります。



## ちいさなへいたい

パウル・ヴェルレプト 作 野坂悦子 訳  
朔北社

あるひ、せんそうは、はじめた。どうしてそうなったのか、わからないうちに。ぼくたちは、たたかい、なかまたちはつぎつぎしんだ。そうしてあるひ、せんそうはおわった。みんなは「せんそうにかった!」といって、およろこびした。けれどおおせいのひとがいえをなくし、かなしんでいるたくさんのひとがいた。



## へいわってすてきだね

安里有生 詩 長谷川義史 画  
ブロンズ新社

この絵本は、日本<sup>に</sup>の一番西<sup>いちばんにし</sup>にある、沖縄県<sup>おきなわけん</sup>と那国<sup>なぐに</sup>町<sup>ちやうりつ</sup>立久部良<sup>らしょうがらう</sup>小学校<sup>せうがう</sup>1年生の、安里有生<sup>あさとゆうき</sup>くんが書いた「へいわってすてきだね」という詩<sup>し</sup>の絵本です。

へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。おともだちとなかよし。かぞくがげんき。えがおであそぶ…。へいわへのねがいがかめられています。



## へいわってどんなこと？

浜田桂子 作  
童心社

へいわってどんなこと？きつとこんなこと。せんそうをしない。おなががすいたらだれでもごはんがたべられる。ともだちといっしょにべんきょうできる。おもいっきりあそべる。あさまでぐっすりねむれる。あたりまえのことだよ。日本・中国・韓国の絵本作家が手をつなぎ、こどもたちにおくる<sup>へいわ えほん</sup>平和絵本シリーズの1冊です。



## ゆきのかたち

高橋健司 監修 片野隆司 写真撮影  
ひさかたチャイルド

まっしろにふりつもったゆきのうえについた、いろいろなあと。これはきつねのあしあと。こっちのなみのようなもようは、かぜがつくったんだって。ゆきのかいじゅうみたいなふしぎなかたちには、びっくり！

しぜん<sup>しゃしん</sup>がつくった、いろいろなゆきのかたちをしょうかいする写真えほん。



## もぐもぐどうぶつえん

なかのひろみ 文・構成 福田豊文 写真  
ひさかたチャイルド

どうぶつえんのみんなは、いつもなにをたべているのかな？パンダのだいすきなささ。とてもかたいささのたべかた、してる？ライオンは、まいしゅうしょくじぬきのひがあるんだって！ありくいのしょくじは、むしのありじゃなくて、とくべつなレシビがあるんだ。みんなのたのしいしょくじが、しゃしんでわかる本です。



## セミたちの夏

筒井学 写真と文  
小学館

アブラゼミはどのように生まれるのでしょうか。木に生みつけられた卵からたんじょうした小さなセミの幼虫は、ます土の中をめざします。長い長い土の中の生活のはじまりです。そして、5年目の夏に幼虫は地上をめざすのです。



## てのひらかいじゅう

松橋利光 しゃしんとぶん  
そうえん社

うちのにわであるひ、すごいいきものをみつけたよ。それは、「てのひらかいじゅう」。するどいめでこちらをみながら、したをべろり。おおきなくちをあけると、まるでかいじゅうみたい。でも、ほんとうは…ちいさなとかげのなかま、「カナヘビ」だよ。ふしぎな「てのひらかいじゅう」。きみのちかくにも、もしかしたら「てのひらかいじゅう」がいるかも？！



## もぐらはすごい

アヤ井アキコ 著 川田伸一郎 監修  
アリス館

みなさんは、もぐらを見たことがありますか？もぐらは一生のほとんどを、もりやはやし、こうえんなどのじめんのしたですごします。ちからもちで、おおぐい。でもまっくらなじめんのとんねるのなかで、どうやってたべものをさがすのでしょうか？

もぐらのふしぎを知って、あなたももぐらはかせになりませんか？



## おすしのさかな

川澄健 監修  
ひさかたチャイルド

みんなのだいすきな、おすし。おすしはなにからできているのかな。まぐろやさけなどの、うみやかわでおいでいるさかなだよ。さかなは、どうやっておすしになるのかな？きみの好きなおすしは、なあに？



## おばあちゃんをつくったよ！ おいしいほしがき

宇部京子 文 細川剛 写真  
ひさかたチャイルド

しぶがきをほしてつくった「ほしがき」をしていますか。しぶいかきも、かわをむいて、おひさまのあたるところにほしてたべると、おいしくってあまい「ほしがき」になります。どのようにつくるのか、このほんでしらべてみましょう。



## のりができるまで

伏屋満 監修 北川暢男 写真撮影  
ひさかたチャイルド

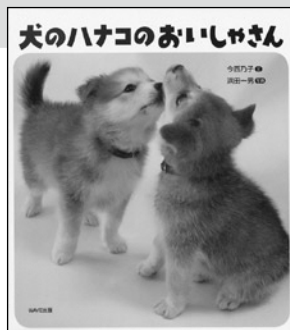
ぱりぱりしておいしいのり。どうやってつくられているか、していますか。のりはうみのなかでそだつくさなんだ。うみにあみをはって、30にちぐらいすると、ふさふさしたのりがついてくる。のりをとりだしてみると、どろどろしている。どうやってぱりぱりになるんだろう。いろいろなりようにつかわれている、のりのひみつがわかります。



## 犬のハナコのおいしゃさん

今西乃子 文 浜田一男 写真  
WAVE出版

犬のハナコ<sup>いぬ</sup>の飼い主<sup>かぬし</sup>は、町の動物<sup>まち どうぶつ</sup>のおいしゃさん、ヒロシ先生<sup>せんせい</sup>です。10年<sup>ねん</sup>まえ、交通事故<sup>こうつうじこ</sup>にあって、この病院<sup>びょういん</sup>にやってきたハナコは、うしろあしが<sup>うしろあし</sup>不自由<sup>ふじゆう</sup>になったため前の飼い主<sup>まえの飼い主</sup>にすてられてしまいました。そんなハナコをヒロシ先生<sup>せんせい</sup>は、すくってくれたのです。ヒロシ先生<sup>せんせい</sup>は、毎日<sup>まいにち</sup>たくさんの「命<sup>いのち</sup>」をすくっているのです。



## 大きな時計台小さな時計台

川嶋康男 作 ひだのかな代 絵  
絵本塾出版

井上少年<sup>いのうえしょうねん</sup>が、札幌時計台<sup>さっぽろ とけいだい</sup>の前に立っています。札幌にあそびにきていたのですが、なんどもみているうちに、時計台<sup>まね</sup>がだいすきになりました。「おとなになったら、この時計<sup>まね</sup>のきかいをいじれるようになりたい」そんな気持ちになりました。少年<sup>しょうねん</sup>は、時計<sup>まね</sup>のペンきょうをたくさんして、「時計台のお医者さん<sup>いしや</sup>」になり、長い間、時計台<sup>まね</sup>を守っています。



## おばあさんのしんぶん

松本春野 文・絵 岩國哲人 原作  
講談社

七十年<sup>なな</sup>いじよう前<sup>まえ</sup>のおはなしです。五年生<sup>ねんせい</sup>になったてつおは家<sup>いえ</sup>がゆうふくでないため、しんぶん<sup>しんぶん</sup>はいたつを始めました。みはらのおじいさんは「はいたつしたしんぶん<sup>しんぶん</sup>をよみにおいで」と言ってくれます。てつおは毎日<sup>まいにち</sup>しんぶん<sup>しんぶん</sup>をはいたつし、おじいさんがなくなっても休まずつづけました。それはおばあさん<sup>おばあさん</sup>が、これまでどおりしんぶん<sup>しんぶん</sup>をよみにおいでといってくれたからです。



## かかしのじいさん

深山さくら 文 黒井健 絵  
佼成出版社

かかしのじいさんのしごととはすすめをおっぱらうこと。「こら、くっちゃならねえぞ」「やーだよ。こめのはなって、うまいんだもん」すすめはじいさんをしたってやってくる。いつしか、じいさんもすすめをまつようになった。そんなある日、おひゃくしょうさんがすすめをつかまえるために、かすみあみをかけようとしているのを知ったじいさんは…。



## きみの家にも牛がいる

小森香折 作 中川洋典 絵  
解放出版社

ぼくじょう 牧場で牛を見たことはありますか？では、みなさんの家に牛はいますか？牛は、私たちの生活で欠かすことのできない存在です。私たち人間は牛から牛乳をいただき、いろいろな食べ物をつくります。また、肉牛の肉もいただきます。それだけではありません。牛は丸ごと一頭、どこも捨てるところがない動物です。さあ、自分のまわりを見てみましょう。「牛」がたくさんいるはずですよ。



## サッカーがだいすき！

マリベス・ボルツ さく ローレン・カスティロ え  
MON やく  
岩崎書店

シエラはサッカーがだいすきです。こんどの土曜日、シーズンさいごのサッカーの試合があります。ふだんはいそがしくておやすみできないおばさんが、おうえんに来てくれることになりました。しかし、試合は雨で中止に。おばさんが次の試合におやすみできるかわかりません。シエラはあることをおもいつきました。



## すばこ

キム・ファン 文 イ・スンウォン 絵  
ほるぷ出版

すばこは、ひとがつくった<sup>とり いえ</sup>鳥の家です。さいしよは、鳥のひなをつかまえるわなでした。鳥の家としてすばこがつくられるようになったのは、いまから100<sup>ねん</sup>ほどまえのことでした。鳥がだいすきなドイツのベルレプシュだんしゃくというひとが鳥たちがあんしんして子そだてができるように、すばこをつくったのです。すばこのことがわかる絵本です。



## せかいでさいしょのポテトチップス

アン・ルノー 文 フェリシタ・サラ 絵 千葉茂樹 訳  
B L 出版

クラムさんは料理<sup>りょうり</sup>がだいすきで、「クラムのレストラン」をはじめました。ある日、そのレストランに「ポテトをどっさりたべさせてほしい」というおきゃくさんがやってきました。できあがったポテト料理をさしだすと「ぶあつすぎる<sup>じつさい</sup>」と、お皿<sup>さら</sup>をおしのけられました。実在したレストランをヒントにえがく、ポテトチップスたんじょうのおはなしです。



## チェクポー おばあちゃんがくれたたいせつなつつみー

イ・チュニぶん キム・ドンソン え おおたけきよみ やく  
福音館書店

オギは教科書とおべんとうを、おばあちゃんがつくってくれたチェクポ<sup>きょう か しょ</sup>（風呂敷<sup>ふろしき</sup>のような布<sup>ぬの</sup>）につつん<sup>がつこう</sup>で学校にかよいます。ともだちのダヒがかってもらった新品<sup>しんひん</sup>のかばんが、オギはうらやましくてたまりません。学校からのかえり道<sup>みち</sup>、ダヒにチェクポをからかわれ、ふたりはけんかをはじめます。おばあちゃんのまごころがつまった<sup>いろ</sup>、色あざやかなチェクポが印象的な韓国の絵本です。



## っぽい

ピーター・レイノルズ ぶん・え  
なががわちひろ やく  
主婦の友社

えをかくのが、だいすきなラモン。ところが、か  
びんのえを書いているラモンをおにいちゃんが「ぜ  
んぜんにてないじゃん!」とおおわらいしました。  
ラモンは、ちゃんとした、ほんものそっくりなえをかこうとしますが…うまくいきませ  
ん。そんなとき、いもうとのマリソルが「あたし、このえがすき」といつてくれたのです。



## としょかん じどうしつ ひ 図書館に児童室ができた日 アン・キャロル・ムーアのものがたり

ジャン・ピンボロー 文 デビー・アトウェル 絵  
張替恵子 訳  
徳間書店

1870<sup>ねん</sup>年ごろのアメリカであった、ほんとうのおはな  
しです。アンはものがたりをよんでもらうのがだいすき  
な女<sup>おんな</sup>の子。そのころ、子どもたちは図書館のなかに入れ  
ませんでした。大人<sup>おとな</sup>になったアンは、図書館に子どもだ  
けのための「児童室」をつくろうとおもいました。子どもたちがじゆうに本を手  
にとり、いつでも楽しい本がよめるように。



## ぼくの先生は東京湾

中村征夫 写真・文  
フレーベル館

多く<sup>おほ</sup>の人たちがくらす町<sup>ひと</sup>、東京<sup>まち</sup>。そのすぐ近  
くに広がるのが東京湾<sup>とうきょう</sup>です。その海<sup>うみ</sup>の中をのぞ  
いてみるとたくさんの生きものたちがくらして  
います。わたしたち人間<sup>にんげん</sup>も東京湾から多くの命<sup>いのち</sup>をもらっています。この本を読むと、  
東京湾のことがよくわかり、人間もまた、自然<sup>しぜん</sup>のなかで生きるひとつの生きもの  
だということがわかります。



## むらの英雄 えいゆう —エチオピアのむかしばなし—

わたなべしげお 文 にしむらしげお 絵  
瑞雲舎

むらの12にんのおとこたちが、こなをひいてもらうために、まちへいきました。かえりみち、なかまがいきとおなじように12にんいるかどうかきになり、かぞえてみました。ところが、じぶんをかぞえていなかったで、11にんしかいません。こんどはべつのおとこがかぞえました。やはりじぶんをかぞえていなかったで、11にんしかいません。「たいへんだ! だれかがいないぞ!」おおさわぎになりました。



## アヤカシ薬局閉店セ〜ル やっきょくへいてん

伊藤充子 作 いづのかじ 絵  
偕成社

さくらさんというおばあさんが、ひとりでやっているアカシヤ薬局。お客さんがこなくなり、閉店セ〜ルをはじめます。さっそくポスターをつくってはりますが、古道具屋で買ったまねきねこ「フクノ介」がうごきだし、チラシを書きはじめます。そのチラシは風にとばされ、ふしぎなお客がつつぎにやってくるようになりました。アカシヤ薬局が、アヤカシ薬局になっていたのです。



## 行ってきまあす!

升井純子 著  
講談社

小学校4年生になった歩美は、楽しみだった「ノルミルラリー」に参加することにした。三人以上で参加するこのラリーは、市内の観光名所や工場でスタンプ帳にスタンプを押してくると、その数によって、大中小のきらきら光るバッジがもらえるのだ。そして何より楽しみなのは、これまでは親といっしょでないと行けなかった場所に、行くことができること。でも、ラリー初日からいろいろな事件がおこる。



## うさぎの庭<sup>にわ</sup>

広瀬寿子 作 高橋和枝 絵  
あかね書房

修<sup>おさむ</sup>は自分の気持ち<sup>きもち</sup>がうまく話せない。心をうちあけられるのは、飼<sup>か</sup>っているうさぎのチイ子<sup>ちいこ</sup>だけ。母さんも父さんもうさぎの悪いことばかりいう。でもいいかえすとまた何をいわれるかわからないからだまっている。ある日の放課後<sup>ほうかご</sup>、クラスメイトの小野<sup>おの</sup>くん<sup>の</sup>と会った修は、うさぎを飼っていることを小野<sup>おの</sup>くん<sup>の</sup>に話した。



## オバケの長七郎

ななもりさちこ 作 きむらなおよ 絵  
福音館書店

古道具屋「へなもんや」の源ジイ<sup>げん</sup>は、ある夜ゴミすて場でオバケ<sup>おばけ</sup>を拾<sup>ひろ</sup>います。白くて小さくて大福<sup>だいふく</sup>そっくりのオバケは「長七郎<sup>ちやうしちろう</sup>」と名乗<sup>な</sup>りました。200年<sup>ななひゃくねん</sup>も眠っていた長七郎<sup>ちやうしちろう</sup>は、源ジイの仕事の手伝いをしながら居候<sup>そうろう</sup>することになりました。「やなぎした商店街<sup>しょうてんがい</sup>」の人たち<sup>ひと</sup>を巻き込んで、今日<sup>けふ</sup>もゆかいな事件<sup>じけん</sup>が起こります。



## おれからもうひとりのぼくへ

相川郁恵 作 佐藤真紀子 絵  
岩崎書店

待ちあわせの公園まで、自転車で向かう智<sup>さとし</sup>の目の前にとつぜん1台の自転車<sup>あらいわ</sup>車が現れた。ぶつかる!でもつぎの瞬間<sup>しゅんかん</sup>、だれともぶつからなかった。ふしぎに思いながら公園に向かったが、だれもない。翔平<sup>しょうへい</sup>の家<sup>いえ</sup>に行くと翔平<sup>しょうへい</sup>とまさ<sup>まさ</sup>とがいたが、「やくそくなんてしていない」と言う。家に帰ると、母ちゃんもいつもとちがう。自分がどこかにもう一人いるのかも…と思うちょっとふしぎなお話です。



## 消えた時間割

西村友里 作 大庭賢哉 絵  
Gakken

クラスで配られる時間割のプリントに、こぼれた墨汁が飛びちり黒いシミがついた。月曜日の「体育鉄ぼう」が墨汁で消えた菜々子は、けがをして体育に出られなくなった。そして、火曜日の「算数」が消えていた翔太は、教頭先生によびだされ、その時間にいなかったという。ほかに何人も、墨汁が消したとおりに、時間割にあったできごとが本当になくなっていった。これってぐうぜん？4年1組の不思議なお話。



## きくち駄菓子屋

かさいまり 文 しのとうこ 絵  
アリス館

佐藤浩介は十歳。両親が離婚したため、夏休みに入ってすぐに、おばあちゃんの住む町へ引っ越してきました。ある日、町探検にでかけた浩介は、古くさい看板の古くさい店「きくち駄菓子屋」を見つけます。おとなしくて、友だちができるのに時間がかかる 浩介にとって、この店のじいちゃんが最初の友だちとなりました。



## つくしちゃんとすぎなさん

まはら三桃 作 陣崎草子 絵  
講談社

学校の帰り道にある、青い三角形の帽子をかぶったような白い家。そこには魔女が住んでいると聞いたつくしちゃん。魔女の家のわきををとらないと、ひっこしてきた家にかえれません。だけど、そこに住んでいたのは、すぎなさんというおばあさん。ひとり暮らしで、植物にくわしくて、さわがしいのがきらいなすぎなさんは、ある日、つくしちゃんが落としたりとびをひろってくれました。



## つくろいものやはじめます -お江戸あやかし物語-

水沢いおり 作 石橋富士子 絵  
偕成社

お江戸の町のちいさな店<つくろいもの屋 こまち>には  
秘密がありました。じつは、お屋敷の蔵に眠っていたさい  
ほう箱の中身が、あやかしとなつてはじめた店なのです。は  
たらくのは、もとはまち針のこまちねえさん、糸切りばさ  
みのちょきち、そしてぬい針のぬいばあ。店をひらいて十日、  
はじめてやってきたお客さんは、こがねいろのめずらしい布地を持った女の子でした。



## なみきビブリオバトル・ストーリー -本と4人の深呼吸-

赤羽じゅんこ 作 松本聡美 作 おおぎやなぎちか 作  
森川成美 作 黒須高嶺 絵  
さ・え・ら書房

「ビブリオバトル、やりませんか？」そんな図書館のポス  
ターにひかれ、並木図書館には、佐藤修他3人の小学生が  
集まりました。ビブリオバトルとは、本を紹介しあうゲーム  
です。図書館の司書にアドバイスをもらいながら、4人は  
それぞれ、自分の好きな本を選んできました。さあ、ビブリオバトルのはじまりです。



## 2分の1成人式

井上林子 著 新井陽次郎 絵  
講談社

あたし、桐谷ユメ、十才。アニメ「魔法少女マリリン」が大  
好き。だけど、ようちっぽいって思われるから学校ではひみ  
つ。勉強も、習い事もあまりとくいじゃないし、とりえも  
なくて、なんだか最近、心がしぼんでる。そんなとき、学校  
で「二分の1成人式文集ノート」を書くことになった。「未来の予定表」「将来のゆめ」  
… 未来なんか、想像できない。「魔法少女マリリンになりたい」なんて、書けない。ど  
うしよう。



## ねこの小児科医ローベルト

木地雅映子 作 五十嵐大介 絵  
偕成社

よなかにユキのおとうとのユウくんが、ひどくは  
いたり、げりをしたりしはじめました。夜間救急  
せんもん 専門小児科医の松田ローベルトというせんせい  
にユキのおうちまで診察にきてくれることに。小  
さなバイクにのってあらわれたのは、なんとねこのお  
いしゃさんでした。やさしいねこのローベルト先生のふしぎなおはなしです。



## はじける！パットライス

くすのきしげのり 作 大庭賢哉 絵  
あかね書房

夏休み、おばあちゃんの待つ徳島へ、家族でやってき  
たハルカは、おばあちゃんが熱中症で入院したことを知  
ります。おばあちゃんに、なにか食べたいものはないか  
聞いたハルカに、おばあちゃんは『パットライス』が食  
べたいと言います。『パットライス』ってなに？『パット  
ライス』を知らないハルカは、おばあちゃんに食べさせてあげることはできるかな？



## ふしぎの時間割

岡田淳 作・絵  
偕成社

一年生のみどりが、学校の中でひとりでいけるとこ  
ろは、トイレだけ。それなのにきょうは、保健室までいか  
なければならない。廊下にはあってあるいろいろな色の  
ピータイルの緑色だけを踏んでならいけるかもしれない。  
その時、うしろからねこがきた。ねこは「おれの体は黒いから、おれは黒のピータ  
イル」といって追い越していった。朝から夜まで、ふしぎな時間割はつづきます。



## ふたりだけの運動会

あいほらひろゆき 作 佐藤真紀子 絵  
佼成出版社

リレーの選手<sup>せんしゅ</sup>になったことがない小学校3年生の  
孝太<sup>こうた</sup>は、リレーの選手<sup>せんしゅ</sup>になって病氣<sup>びょうき</sup>で入院中<sup>にゅういんちゅう</sup>のお母さん  
を元気にしてあげたいと思いました。クラスのみ  
んなでしようとした結果<sup>けっか</sup>、孝太はみごとに、リレー  
のアンカーにえらばれました。ところが、運動会<sup>うんどうかい</sup>の朝、  
お母さんはこれなくなっていました。



## ふつかつき 二日月

いとうみく 作 丸山ゆき 絵  
そうえん社

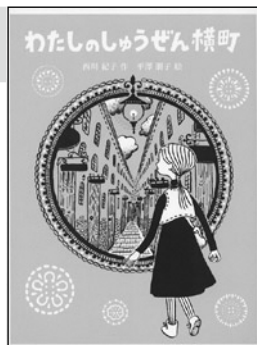
あたしには、芽生<sup>めい</sup>という妹がいる。ミルクを飲むとすぐに  
吐<sup>は</sup>いてしまう。だから大きくなれない。そんな芽生<sup>めい</sup>は、病院  
の先生<sup>せんせい</sup>に「障<sup>しょう</sup>がいが出るだろう」と、言われた。だからママ  
はいつも芽生<sup>めい</sup>につきっきりで、あたしは、さびしかった。お  
もわず「芽生<sup>めい</sup>が生まれてこなければよかったのに。」と、言ってしまった。あたしは、小  
さな芽生<sup>めい</sup>を守ってあげなきゃいけないのに。あたしは、いやなコ。自分がきらいになった。



## わたしのしゅうぜん横町

西川紀子 作 平澤朋子 絵  
ゴブリン書房

わたしが外国<sup>たひ</sup>を旅していたときのこと。地図を見なが  
ら水くみ場をさがして水をのんだあと、小さな男の子にで  
あいました。あとをついていくと、「しゅうぜん横町<sup>よこちょう</sup>」と  
いう看板<sup>かんばん</sup>のかかった通りにでました。きっといろいろな  
しゅうぜん屋が集まっているのでしょう。わたしは、まず「たんす屋」に入ってみるこ  
とにしました。そして、そこでご主人から、ある指輪<sup>ゆびわ</sup>だんすにまつわる話をききました。



## わたしのひよこ

磯みゆき 文 ささめやゆき 絵  
ポプラ社

ひっこみじあんで、めだたないひな子。ある日、人  
気者のナオミちゃんのなかよしグループにまざるよう  
になった。あこがれのナオミちゃんといっしょにいと、  
ひな子は今までとちがう自分になったような気がした。

でも、時々、グループでいっしょにいるのがきゅうくつに思えてきて…。そんなひな  
子をなぐさめてくれるのは、縁日の夜店で買ってもらったひよこのぴーころだった。



## アルバートさんと赤ちゃんアザラシ

ジュディス・カー 作・絵 三原泉 訳  
徳間書店

自分の店を売り、やりたいこともなく、なんだか毎日  
がつまらないアルバートさん。そんなある日、海で野生  
のアザラシの親子に出会ったアルバートさんは、かわい  
い赤ちゃんアザラシにひかれます。ところが、母親アザ  
ラシが漁師に銃でうたれて死んでしまいました。弱っていく赤ちゃんアザラシを  
助けるために、アルバートさんは自分がつれて帰り、町の動物園に引きとってもら  
おうとします。実話をもとにしたお話です。



## うちはお人形の修理屋さん

ヨナ・ゼルディス・マクドノー 作 おびかゆうこ 訳  
杉浦さやか 絵  
徳間書店

アナのパパはお人形の修理屋さん。アナは三人姉妹  
のまん中で、優等生のお姉ちゃんと、甘えんぼうの妹  
がいます。けんかをすることもあるけど、三人はお人  
形で遊ぶのが大好き。だけどある日、ヨーロッパで  
戦争が始まり、パパは仕事ができなくなってしまいます。パパや家族のみんなを  
助けるために、アナはあることを思いつきます。



## カルペパー一家のおはなし

マリオン・アピントン 作 清水眞砂子 訳  
ルイス・スロボドキン 絵  
瑞雲舎

デビーのお父さんは大きな紙をくるくるまわしながら、はさみをうごかしています。できあがったのは、すてきな家でした。つぎにおとうさんは、紙人形のおとうさん、おかあさん、そして4人の男の子と4人の女の子を作りました。こうして、なかよしのカルペパー一家ができあがりました。一家の楽しい毎日がはじまります。



## 黒ネコジェニーのおはなし 1 ジェニーとキャットクラブ

エスター・アベリル 作・絵 松岡享子・張替恵子 共訳  
福音館書店

赤いマフラーのにあう小さな黒ネコのジェニー・リンスキーは、ネコのあつまり「キャット・クラブ」にはいるため、なにかとくぎをみつけようとします。スケートをして、クラブのみんなにみせることにしました。はにかみやでひっこみじあんだけど、やるときはやるジェニーのゆかいなおはなしが3つはっています。



## 子ぶたのトリュフ

ヘレン・ピーターズ 文 もりうちすみこ 訳 エリー・スノードン 絵  
さ・え・ら書房

ジャスミンは、家畜の獣医をしているお母さんについていった近所の農場で、生まれたばかりの子ぶたたちに出会います。そのなかの一びきの子ぶたが死にそうなのを見つけたジャスミンは、家へつれて帰りトリュフという名前をつけて育てることにしました。元気に育ったトリュフのはじめてのクリスマスイベントがおこります。りこうな子ぶたトリュフと、やさしい女の子ジャスミンのふれあいの物語です。



## ゾウの鼻が長いわけーキプリングのなぜなぜ話ー

ラドヤード・キプリング 作 藤松玲子 訳  
岩波書店

むかしむかし、ゾウの鼻が短かったころ。知りたがり  
やのゾウの子はワニが何を食べるのか知りたくて、遠く  
の川へでかけていきます。まんまとワニにだまされて、  
鼻をかまれて引っばられます。そうするうちに鼻がどん  
どんのびてきて…!? ゾウやヒョウ、ネコやカンガルー  
など、いろいろな動物の楽しい12の物語です。



## 月へーアポロ11号のはるかなる旅ー

ブライアン・フロッカ 作・絵 日暮雅通 訳  
偕成社

空のかなたにうかぶ月。地上にいるのは、特別に  
あつらえた服にぴったりと身をつつんだ3人の男た  
ち。彼らは、ロケットに乗り込み宇宙へと飛び出し  
ていく。1969年7月。アメリカ・フロリダ州から  
発射されたアポロ11号に乗って、人類が初めて  
月に降り立つまでをえがいた絵本。



## パイパーさんのバス

エリナー・クライマー 作 小宮由 訳 クルト・ヴィーゼ 絵  
徳間書店

パイパーさんは、町をはしるバスの運転手です。バス  
を運転したり、おきゃくさんとはなしたりするのは大すき  
ですが、家族がいないので、アパートに帰るとひとりきり。  
ところがとつぜん、パイパーさんの生活ががらりとかわ  
ることがおこりました。茶色い子犬が1ぴき、パイパーさんのうちまでついてきたの  
です。パイパーさんといろいろな動物たちのふれあいが楽しいおはなしです。



## ピーターサンドさんのねこ

ルイス・スロボドキン 作 清水眞砂子 訳  
あすなろ書房

夏がきて、ふだんは町に<sup>まち</sup>くらしている人びとがホテル島にもどってくると、みんな「ねこがいたら、いいのにな」と思います。その願いをかなえてくれるのが、ピーターサンドさんでした。ピーターサンドさんは、<sup>りょうし</sup>漁師で一年じゅう島に<sup>ひと</sup>くらしてたくさんのねこのせわをしているのでした。ところがある夏、じけんがおきました。



## メリサンド姫 -むてきの<sup>ひめ</sup>算数!<sup>さんすう</sup>!-

E・ネズビット 作 灰島かり 訳 高桑幸次 絵  
小峰書店

むかし、人間と妖精が<sup>にんげん</sup>いっしょに<sup>ようせい</sup>くらしていたころに<sup>う</sup>生まれたメリサンド姫。王さまの反対で、たんじょう祝いの<sup>かい</sup>会をしなかったため、妖精に<sup>おう</sup>呪い<sup>はんたい</sup>をかけられてしまいます。それは、メリサンド姫が<sup>いっしょう</sup>一生は<sup>あた</sup>げ頭<sup>ま</sup>になるというものでした。何でも願いのかなう魔法の小箱で、妖精の呪い<sup>い</sup>をとくことができた姫でしたが、その願いが、またたいへんなことをまきおこします。算数も出てくるお話です。



## リキシャ★ガール

ミタリ・パーキンス 作 永瀬比奈 訳 ジェイミー・ホーガン 絵  
鈴木出版

バングラディッシュの村に住むナイマは<sup>さい</sup>十歳の女の子。この村の伝統で、祝日の日に、家の前の敷石や小道をかざる、アルパナと呼ばれるもようをかくことについては、村で一番じょうずです。でも、アルパナをかくことでは、お金をかせぐことができません。リキシャの運転で、毎日つかれてかえってくるお父さんの役に立ちたいナイマは、お父さんを休ませてあげるために、ある計画を思いつきます。



## リンゴの丘のベッツィー

ドロシー・キャンフィールド・フィッシャー 作  
多賀京子 訳 佐竹美保 絵  
徳間書店

赤ちゃんの時に両親を亡くし、町に住む大おばさんのもとでだいに育てられたベッツィー。ところが9歳になったある日、大おばさんが亡くなり、親戚のパットニー農場に行くことになりました。泣き虫でひっこみじあんなベッツィーでしたが、農場ではじめてのことばかりの暮らしをするうちに、少しずつ変わっていきます。



## うわさごと

梅田俊作 文・絵  
汐文社

友達とケンカしたわたしに、じいちゃんはお子どものころの話をはじめた…。じいちゃんの兄ちゃんのクラスに、広島からの転校生・ケンゴがやってきた。兄ちゃんはケンゴとケンカした。「だって、ゲンシ病をうつすやろ」だれもがみんな言ってることだったけど、それを聞いた父ちゃんは、兄ちゃんをにらみつけた。



## オー Oじいさんのチェロ

ジェーン・カトラー 作 グレグ・コーチ 絵  
タケカワユキヒデ 訳  
あかね書房

いま、わたしのまちは戦争にまきこまれている。男の人たちは戦いにいってしまい、まちにいたのは子どもと女の人と老人と病気の人たちだけ。まちにはいつも「オー」っておこるO（オー）じいさんがいて、わたしたちをおこる。ある日、ロケット弾が落ちた。Oじいさんは、チェロを弾きだした。音楽は、救援トラックと同じようにみんなに生きる勇気をくれた。



## この本をかくして

マーガレット・ワイルド 文 フレヤ・ブラックウッド 絵  
アーサー・ビナード 訳  
岩崎書店



てきの飛行機がおとしたばくだんが図書館にあたっ、  
本はたった一冊をのこしてみんなもえてしまった。の  
こったのは、ピーターのおとうさんがかりてだいじによんでいた本。まちをでてい  
かなければならなくなるとき、おとうさんはその本を宝ものだといって、てつの箱  
にいれた。ピーターはその宝ものをかならずまもることを、おとうさんにやくそくした。

## 字のないはがき

向田邦子 原作 角田光代 文 西加奈子 絵  
小学館



そがいすることになったいもうとに、おとうさんは  
はがきをたくさんわたして、げんきな日は、はがきに  
〇をかいてポストにいれるようにいいました。はじめ  
は、〇がついたはがきがとどきました。でも、〇は  
だんだん小さくなってきたのです。戦争のかなしみ  
と、その中でいきる家族のきもちをえがいた絵本です。

## タケノコごはん

大島渚 文 伊藤秀男 絵  
ポプラ社



日本が戦争をしていたころ、ぼくたちの組につよく  
てほがらかな、さかいくんというともだちがいました。  
でも、さかいくんはおとうさんが戦争で亡くなってか  
ら、ときどきよいもののいじめをするようになりました。しばらくして、ぼくたちの  
担任の先生は戦争にいき、かわりの先生がきました。さかいくんも ぼくたちも、その  
やさしい先生がだいすきになりました。だけど先生も、戦争にいくなかったのです。

## ちえちゃんのおはじき

山口節子 作 大畑いくの 絵  
佼成出版社

おばあちゃんといっしょに<sup>かぐらざか</sup>神楽坂にやってきたそ  
ら。おばあちゃんから戦争がはげしくなってきたと  
きに、ともだちのちえちゃんとうめたおはじきのほ  
なしをききます。うめたばしょのめじるしである、

<sup>あかぎ</sup>赤城神社の<sup>おお</sup>大いちょうの木や<sup>き</sup>神楽殿はなくなっていました。ふたりは、そのお  
はじきをほりだすことができました。すると<sup>そら</sup>に、ふしぎなことがおこります。



## ヒロシマのいのちの水

指田和 文 野村たかあき 絵  
文研出版

日本が<sup>にほん</sup>せんそうをしていたころ、<sup>としえ</sup>利枝が<sup>おと</sup>ほいくえんのお  
やつ<sup>おと</sup>のじゅんぴをしていると、ドカン!と音がしてみ  
なふきとばされた。こどもたちがいない!さがしまわ  
ると、あちこちに<sup>ひと</sup>人が<sup>みず</sup>たおれ水をほしがっていた。でも、そのときはこどもたちを  
さがすために、<sup>みず</sup>水を<sup>てら</sup>くんで<sup>はこ</sup>あげる<sup>げんぱく</sup>ことができなかった。せんそうがおわってからず  
と、利枝は<sup>はこ</sup>やまのお寺の水を<sup>げんぱく</sup>くんで運び、<sup>げんぱく</sup>原爆いれいひにおそなえているのです。

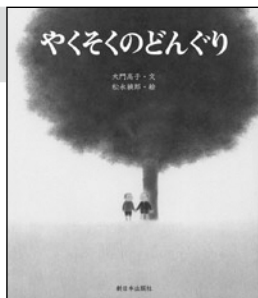


## やくそくのどんぐり

大門高子 文 松永禎郎 絵  
新日本出版社

<sup>かんこく</sup>韓国の南にハブチョンという町があります。高台に  
たつ「みんなの家」に、ヒバクシャたちがくらしていて、  
庭に、ヒロシマのどんぐりの木が育っています。それ

は、日本が戦争をしていたころのこと。キム・スングは、ヒロシマで生まれ、<sup>かね</sup>金  
田正夫という名前<sup>だまさお</sup>で育ちました。両親<sup>りょうしん</sup>は生きるため、ヒロシマに<sup>はたら</sup>働きにきた韓  
人でした。ある日、学校で正夫にどんぐりをくれたのが、<sup>たけお</sup>武夫くんでした。

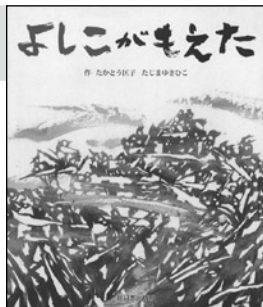


## よしこがもえた

たかとう匡子 作 たじまゆきひこ 作

新日本出版社

わたしは一年生、妹のよしこは三歳、下の妹は生まれたばかりだった。真夜中、けたたましい空襲警報のサイレンの音。よしことわたしはてをつないでにげていたが、ちかくで焼夷弾が炸裂して、からだをたたきつけられ、ふきとばされた。あっ、よしこの髪の毛に火がついた！よしこはそのままころがっていった。気がついたとき、そこは防空壕の中だった…。1945年7月3日、姫路空襲でおきた悲しいお話です。



## みんなのチャンス -ぼくと路上の4億人の子どもたち-

石井光太 著

少年写真新聞社

日本では、当たり前のように家があって、フトンで寝て、朝ごはんを食べていますが、世界には家がなくて、道路で生活している子どもたちが4億人もいます。ドブ川の水で体を洗う子ども、にごっている水でうがいをして、洗たくをする子ども…。今、世界のまずい国の子どもの暮らしを見た君たちは、何を感じ、何を考えますか。



## 月の満ちかけ絵本

大枝史郎 文 佐藤みき 絵

あすなる書房

太陽がしずんだら、月をさがしてみよう。月は毎夜、形を変えている。むかしは電気がなくて、明かりでもあった月を心から大切に思っていた。月の満ちかけで、日を数えた。月と人は今よりも、もっともっと生活にむすびついていたんだ。そんなむかしの人の気持ちを思いながら、月の満ちかけのふしぎをさぐってみよう。



## プランクトンのえほん ミジンコ

吉田丈人 監修  
ほるぷ出版

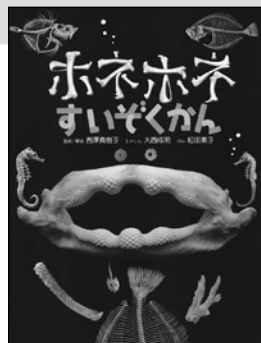
ミジンコは、たんぽやいけなどで見る<sup>み</sup>ことができます。ミジンコの体長は1~3ミリメートルぐらい、からだの色<sup>いろ</sup>はどうめい、スイツ、スイツとすばやくおよぎます。心臓<sup>しんぞう</sup>は1分間に200回<sup>ぶんかん</sup>うごきます。さあ、こんなにちいさなミジンコ、どんないきものなのかな。ほかに、「ゾウリムシ」<sup>しよくぶつ</sup>「植物プランクトン」の2さつがあります。



## ホネホネすいぞくかん

西澤真樹子 監修・解説 大西成明 しゃしん 松田素子 ぶん  
アリス館

むかしむかし、ホネをもつさいしょのいきものは、いったいどこでうまれたんだろう？それは海！地球のいのちの<sup>なんあくねん</sup>もととは、何億年もまえの、海のなかでうまれた。ホホジロザメ、トビウオ、タツノオトシゴ、イルカなど、いろいろな<sup>すいちゆうせいぶつ</sup>水中生物のホネを見てみよう。ホネの<sup>い</sup>ちがいは、生きかたのちがいを<sup>おしえて</sup>くれる。もうきみは、ホネはかせ！



## どこにいるの イリオモテヤマネコ

横塚眞己人 写真・文  
小学館クリエイティブ

おきなわけん いりおもてしま  
沖縄県の西表島だけにすむ、イリオモテヤマネコ。島<sup>しま</sup>にすむ人<sup>ひと</sup>でさえ、めったに見ることは<sup>み</sup>ない野生ネコ<sup>やせい</sup>です。動物写真家のぼくは、うんちや足あと、木に残<sup>のこ</sup>ったつめあとなどの「こんせき」を手<sup>て</sup>がかりに、イリオモテヤマネコを追<sup>お</sup>うことにしました。西表島の自然<sup>しぜん</sup>や動物<sup>どうぶつ</sup>たちの様子<sup>ようす</sup>が、迫力<sup>はくりよく</sup>のある写真<sup>つた</sup>で伝わってくる本です。



## もり クルミの森のニホンリス

ゆうきえつこ 文 福田幸広 写真  
小学館

リスが大好物のクルミをどうやって食べるのか、知っていますか？この本に登場するニホンリスは、1日に10こもクルミを食べます。夏はブドウのように木になったクルミを上手にもいで運び、秋は地面でひろったクルミを冬にそなえて土にうめておきます。いきいきしたニホンリスの生態を、美しい写真で楽しめる絵本です。



## 保存食の絵本 1 野菜

こしみずまさみ へん かめざわゆうや え  
農山漁村文化協会

野菜の保存食は、収穫が少ない冬の季節にそなえ、干したり、塩に漬けたりしたのがはじまり。切り干し大根、干しいたけなどの乾燥食品や、いろいろなお漬けものもあるね。だけど、干したり、塩漬にすると長持ちするのはどうしてかな？保存食をつくるのに必要なちょっとしたコツや、保存のしくみを知ってじょうずに野菜の保存食をつくってみよう！



## ほ 干したから…

森枝卓士 写真・文  
フレーベル館

れんこん・りんご・しいたけ・ぶどう…干した食べ物。私達のまわりにもいっぱいあるけど、世界じゅうを歩いた著者が、世界のいろんな干物を大紹介。プータンの市場で見つけた、がちがちにかたいチーズ。ラオスではコウモリの干物も！

ところで、どうして食べ物を干すのだろう？干さなくても食べられるのに。干すことのふしぎにせまる。



## かいこ お蚕さんから糸と綿と

大西暢夫 著  
アリス館

きもの ふとん さいりょう になる「生糸」や「真綿」が、蚕  
という虫の繭から作られることを知っていますか？糸  
や綿を作るには、蚕の命をもらわなければいけません。  
今では少なくなってしまった蚕から糸や綿を作る方法  
を見ると、糸や綿がたくさん命から生まれていることがよくわかります。蚕が「お  
蚕さん」と呼ばれ、大切にされているわけがわかるはずですよ。



## 築地市場 ー絵で見る魚市場の一日ー

モリナガヨウ 作・絵  
小峰書店

みなさんがいつも食べている魚はどこからやって  
くるのでしょうか？日本や世界各地の水産物が集ま  
るのが、東京都中央卸売市場築地市場です。この本  
では、鮮魚が取引される様子や市場ではたらく人の  
様子、いろいろな運搬車などをこまかいイラストで  
紹介しています。



## めん お面

井上重義 文 日本玩具博物館 監修  
文溪堂

お面とはどんなものをそうぞうしますか？お祭  
りで見るとようなお面でしょうか？お面は仮面ともいい、  
自分の顔に別の顔をつけて、もとの自分とは違う存  
在になろうとするための道具です。この本では、日  
本各地域の行事で使われるお面や特色のあるお面、  
また、世界各国のお面を紹介しています。



## 糸に染まる季節

大西暢夫 写真・文  
岩崎書店

「十日町<sup>とお か まち</sup>の色を出したいから、十日町<sup>そだ</sup>で育った植物<sup>そ</sup>で染めたい」ヨモギ、クルミ、スギ、ニセアカシア…。そのときの旬<sup>しゅん</sup>の植物を使って真っ白な糸を染めていく。季節を大事にしながら、同じことを繰り返している。でも同じ色にはならない。新潟県十日町市<sup>にいがたけん</sup>で暮らす染織家<sup>く</sup>の暮らしを写真とともに紹介する。



## 「感じ」が伝わるふしぎな言葉 — 擬音語・擬態語ってなんだろう —

佐藤有紀 著  
少年写真新聞社

擬音語とは音をあらわす言葉で、たとえば「わんわん」や「にゃーにゃー」、擬態語とは人や生き物の様子や気持ちをあらわす言葉で、「わくわく」や「くよくよ」などです。日本語には、5千種類<sup>しゅるい</sup>もの擬音語や擬態語があります。みなさんは、それらの言葉をどのように使いますか。自分らしさを表現できる言葉を選んで、「きらきら」「わくわく」過ごしてくださいね。



## ことばハンター — 国語辞典はこうつくる —

飯間浩明 著  
ポプラ社

知らないことばが出てきたら使う『国語辞典』、どのように作られているのでしょうか。辞書を作るためには、多くのことばを集めることが必要です。私は街を歩いたり新聞を読んだり、いつも知らないことばがないか注意しています。集めたことばをもとに、辞書にのせることばを選んだら、次は、意味の説明です。一番わくわくする作業です。さて『国語辞典』、どんなことばがのっているのでしょうか。



## はなし たね お話の種をまいて - プエルトリコ出身の司書プーラ・ベルプレー

アニカ・アルダムイ・デニス 作 パオラ・エスコバル 絵  
星野由美 訳  
汐文社

1921年、プエルトリコからニューヨークにやってきたプーラ。彼女が働くことになった図書館には、プエルトリコの本がありませんでした。プーラは、おばあちゃんが教えてくれたお話を語ったり、人形劇にしたり、本にしたりして子どもたちに伝えます。わくわくさせるお話を、たくさんの人に届けた司書プーラの物語です。



## かいじょけん 介助犬レスキューとジェシカ - 人生をかえた友情の物語 -

ジェシカ・ケンスキー 文 パトリック・ダウネス 文  
スコット・マグーン 絵 よしいかずみ 訳  
B L 出版

ジェシカは、けがのため両足を切断し義足をつけて車いすで生活をしています。そんなジェシカのところへ介助犬レスキューがきました。レスキューとジェシカの訓練のはじまりです。いっしょに長い訓練の時間をすごすうちに、ジェシカは、わすれかけていたしあわせな気持ちになることができました。



## き ぼう ぼくじょう 希望の牧場

森絵都 作 吉田尚令 絵  
岩崎書店

2011年3月11日、東日本大震災。原発施設をつなみがあそい、事故がおこった。放射能が広がって「立ち入り禁止区域」になった土地。だれもいなくなった町の牧場にオレはのこった。なぜなら、オレは牛飼いだから。放射能をあびて、売れない牛たちにまいにちエサや水をやる。近くの牧場主からたのまれた牛や、まいごになってた牛も、ひきとった。なぜなら、オレは牛飼いだから。やがてうちの牧場は、「希望の牧場」とよばれるようになった。



## スワン アンナ・パブロワのゆめー

ローレル・スナイダー 文 ジュリー・モースタッド 絵  
石津ちひろ 訳  
BL出版

アンナは、はじめてバレエをみました。舞台のうえで  
くりひろげられているのは、バレエに<sup>ねむ</sup>眠れる森の美女<sup>もりのひじょ</sup>。アンナはむちゅうになり、バレエ学校<sup>がっこう</sup>のとびらをたたきました。その時はまだちいさすぎました。おおきくなったアンナは、みごと、バレエ学校に合格！毎日<sup>まいにち</sup>レッスンをかさね、ついに舞台にたつ日がやってきました。



## 「走る図書館」が生まれた日 - ミス・ティットコムとアメリカで最初の移動図書館車 -

シャーリー・グレン 作 渋谷弘子 訳  
評論社

みなさんは、「走る図書館」をみたことがありますか？  
「走る図書館」を考えたのは、アメリカの司書<sup>ししょ</sup>（図書館で図書の保存・整理などをおこなう人。図書館員。）メアリー・レミスト・ティットコムでした。たくさんの本を車に積みこんで、広いアメリカじゅうを走り、図書館に來られない人たちにも、読書の喜びをとどけました。写真が豊富で、「移動図書館」のことがよくわかります。



## はつめいか おんな こ 発明家になった女の子マッティ

エミリー・アーノルド・マッカーリー 作 宮坂宏美 訳  
光村教育図書

マッティは発明<sup>だいす</sup>が大好きな女の子。「発明ノート」に思いついたものをスケッチし、亡くなったお父さんの工具<sup>こうぐ</sup>を使っていろいろなものをつくりま<sup>な</sup>す。お母さんには足<sup>あし</sup>をあたためる道具<sup>どうぐ</sup>、お兄さんたちには風車<sup>かざぐるま</sup>や人形<sup>にんぎょう</sup>をつくってあげました。やがて大人<sup>おとな</sup>になったマッティは紙袋<sup>かみぶくろ</sup>の工場<sup>こうじょう</sup>で働きはじめ、新しい紙袋製造機<sup>せいざうき</sup>の発明に挑戦<sup>ちようせん</sup>します。19世紀末にアメリカで活躍したマーガレット・E・ナイトの物語<sup>ものがたり</sup>。



## ぼくが一番望むこと

マリー・ブラッドビー 文 クリス・K・スーンピート 絵  
 斉藤規 訳  
 新日本出版社

ぼくは毎日、パパとジョン兄さんといっしょに、朝がまだ来ないうちから、<sup>がんえん</sup> 岩塩の<sup>せいせいしょ</sup> 精製所で働くために家を出る。でも、ほんとうは働くよりも、文字をおそわり字が読めるようになりたい。「字がならいたい」と言ったぼくに、ある日ママが<sup>ひょうし</sup> 青い表紙の小さな本を手わたした。その日から、ぼくの文字の勉強がはじまる。



## マッチ箱日記

ポール・フライシュマン 文 バグラム・イバトゥーリン 絵  
 島式子／島玲子 訳  
 BL 出版

ひいじいちゃんが持つたくさんのマッチ箱には、それぞれいろんなものが入っている。生まれ故郷のイタリアのオリーブの種、ほとんど会えなかった父さんの写真、<sup>ふなたび</sup> 船旅で日にちを数えるのに使ったひまわりの種。読み書きができなかったひいじいちゃんは、そうやって忘れたくないことをマッチ箱に残しておいたんだって。マッチ箱に大事にしまわれた思い出を、ひいじいちゃんはわたしにひとつひとつ話してくれた。



## 雪の結晶ノート

マーク・カッシーノ／ジョン・ネルソン 作  
 千葉茂樹 訳  
 あすなろ書房

みなさんは、<sup>ゆき</sup> 雪の<sup>けっしょう</sup> 結晶を見たことがありますか？<sup>ちい</sup> 小さな小さな雪の結晶、なぜこんなに美しく、<sup>ふくざつ</sup> 複雑なカタチをしているのでしょうか？はじまりはある冬の日。<sup>ふゆ</sup> 空高く、<sup>ひ</sup> さむいさむい<sup>そらたか</sup> 雲のなか。<sup>くも</sup>

雪のものがたりがはじまります。



## わたしのとくべつな場所

パトリシア・マキサック 文 ジェリー・ピンクニー 絵  
藤原宏之 訳  
新日本出版社

パトリシアは、いつもはおばあちゃん<sup>ばあちゃん</sup>と行く“あの場所”  
に一人で行く決心<sup>けっしん</sup>をし、おばあちゃんも許<sup>ゆる</sup>してくれた。バ  
スに乗って「黒人指定席<sup>こくじんししていせき</sup>」にすわり、公園<sup>こうえん</sup>の「白人専用<sup>はくじんせんよう</sup>」ベンチにすわるのをさけ、  
何度もどきどきし、泣きながら“あの場所”“わたしのとくべつな場所”へ向かった。  
やっと着いたそこには、「公共図書館<sup>こうきょうとしょかん</sup>：だれでも自由に入ることができます」とあった。



## あしたも、さんかく ー毎日が落語日和ー

安田夏菜 著 宮尾和孝 絵  
講談社

1年生のとき以来行方不明だったじいちゃんが、5年生<sup>さい</sup>の3学期にぼくの前にあらわれた。じいちゃんは50歳の時に仕事をやめ<sup>はなしか</sup>断家<sup>だんけ</sup>になった。だけど、酒癖<sup>さけぐせ</sup>が悪く師匠<sup>ししょう</sup>に破門<sup>はもん</sup>された。それでも、落語家への気持ちがあきらめきれず、ぼくの貯金を使い込んで独演会を開いてしまった。じいちゃんは、このお金を返そうと、賞金100万円の『アマチュア落語コンクール』で優勝を目指すという。さて、その結果は？



## アリババの猫がきいている

新藤悦子 作 佐竹美保 絵  
ポプラ社

ペルシャ猫のシャイフは由緒ある長老族<sup>ゆいしよ ちやうろうぞく</sup>の筋骨<sup>ちすじ</sup>で、一族は故郷のイランではバザールの猫とよばれる縁起<sup>えんぎ</sup>のいい猫です。シャイフは飼い主のアリババが仕事で日本をはなれる間、民芸品店<sup>か ぬし</sup>〈ひらけごま〉にあずけられることになりました。店にある民芸品たちから身の上話をきくことに夢中<sup>むちゆう</sup>になったシャイフは、バザールの猫のように彼らの願いをなんとかかなえてあげたいと思うのですが…。



## おじいちゃんが、わすれても…

大塚篤子 作    ころも美保子 絵  
ポプラ社

小学5年生の杏<sup>もも</sup>は、この春からジュニアテニスクラブにかようことになり、毎日が楽しい。得意のストロークは、大好きなおじいちゃんが教えてくれた。でも、認知症<sup>にんちしやう</sup>という病気にかかったおじいちゃん<sup>とくい</sup>は、人格や人柄<sup>じんかく</sup>がすこしずつかわっていく。そんなある日、杏は川で犬をひろった。ラックと名づけられたこの犬は、動物ぎらいのはずのおじいちゃんになぜかなついた。



## かさねちゃんにきいてみな

有沢佳映 著  
講談社

オレは間宮<sup>まみや</sup>小学校登校班<sup>はん</sup>・南雲町<sup>なぐもちょう</sup>二班の副班長<sup>さわ</sup>ユッキー。個性派ぞろいの二班の登校はいつも大騒ぎだ。行動<sup>ようどう</sup>が予測できないリュウセイ、いつもうるさい兄弟の太郎と次郎、一年生にして「狂犬<sup>きやうけん</sup>」のミツ…。この班が毎日登校できているのは、班長であるかさねちゃんのおかげだ。かさねちゃんは頭が良くてやさしくて、オレたちのことをちゃんとわかっている。でも、かさねちゃんがすごいのはそれだけじゃないんだ。



## がんばれ給食委員長

中松まるは 作    石山さやか 絵  
あかね書房

なんとなく選んだ給食委員で、くじびきにより委員長になってしまったわたし。給食委員がどんな仕事をするのかもわからない。ある日、栄養士<sup>えいようし</sup>の先生がトイレで泣いていた。給食の食べのこしが多いことにこまっているみたい。みんなが好きなメニューだけの給食にしたらいいと思うのに、それではダメな理由があるって先生は言うの。どうして？



# 獣の奏者シリーズ 獣の奏者1 闘蛇編

上橋菜穂子 作  
講談社

獣ノ医術師の母と暮らす10歳の少女・エリン。母は戦闘用の獣である闘蛇の世話をしていたが、ある日一度にすべての闘蛇が死んでしまい、責任を問われた母は捕らえられ、命を失う。孤児となったエリンは蜂飼いのジョウンに助けられて一緒に暮らすうちに、天を翔ける王獣と出会い、母と同じ道を歩もうと決意する。

※獣の奏者は全4巻プラス外伝があります。



## ケンガイにっ！

高森美由紀 作 加藤休ミ 絵  
フレーベル館

オレ、田中俊。弟の健太が死んでから、父ちゃんも母ちゃんも仕事ばかり、家族ばらばらの食卓に変わってしまったオレの家。ネットゲーム三昧、寝るのはいつも日付が変わってからというオレを、父ちゃんと母ちゃんは夏休みにいなかのばあちゃんちへ送り込んだ。スマホ持参で新幹線とバスを乗り継ぎ、二キロの道を歩いてようやくたどり着いたばあちゃんち。だけど、そこはネットがつながらない「圏外」だった。



## こんぴら狗

今井恭子 作 いぬんこ 画  
くもん出版

時は江戸時代。捨て犬だったムツキを助け、育ててくれた弥生が病にふせてしまった。ムツキは弥生の病が治るよう、霊験あらたかな金比羅さんへ「こんぴら狗」としてかわりにお参りに出されることになった。江戸から讃岐の金比羅さんまで、往復340里の長い旅が始まった。道中、ムツキは様々な人々と出会い、別れ、時に船に乗り、歩き続ける。本当にあった習わし「こんぴら狗」のお話です。



## チキン！

いとうみく 作 こがしわかおり 絵  
文研出版

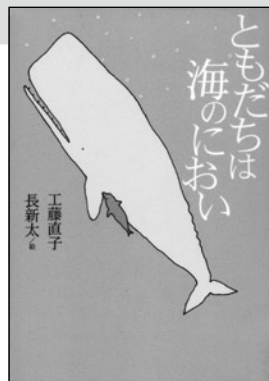
ぼくのクラスに転校生の真中<sup>まなか</sup>さんがやってきた。まちがったことがゆるせないタイプの真中さんは、クラスでトラブルを起こしてばかり。だって、みんなまちがい<sup>まちが</sup>いがまんして毎日<sup>まいにち</sup>過ごしているんだ。面倒<sup>めんどう</sup>なことは避<sup>さ</sup>けてきたぼくの毎日<sup>まいにち</sup>は、真中さんに出会ってとつぜん変わってしまった。



## ともだちは海のおい

工藤直子 作 長新太 絵  
理論社

体操<sup>たいそう</sup>がとくいでお茶を飲むのがすきな、いるか。ビールを飲みながら本をよむことと、詩や小説<sup>しょうせつ</sup>を書くことがすきな、くじら。ふたりは星のきれいな夜、ともだちになりました。海のなかでいっしょに本をよんだり、サーフィンをしたり。すきなものも、体の大きさもずいぶんちがうけど、なかよしなふたりの物語です。



## はじめまして、茶道部！

服部千春 作 小倉マユコ 絵  
出版ワークス

オレは、理由<sup>りゆう</sup>があってナツメと一緒<sup>いっしょ</sup>に茶道部に入部させられた。それは、ナツメの家の押入れ<sup>おし入れ</sup>にお茶道具がかくすようにしまっていてあること、ふだん使っている名前はナツメだけど戸籍上<sup>こせきじょう</sup>はお茶道具の「棗<sup>なつめ</sup>」であること、お母さんがおばあちゃんの事を教えてくれないことに疑問<sup>ぎもん</sup>をもったナツメが、その秘密<sup>ひみつ</sup>をさぐるためだ。「茶の心得<sup>ちのこころえ</sup>」も、学ぶことができます。



## ブルースマンと小学生

こうだゆうこ 作 スカイエマ 絵  
Gakken

六年<sup>ねん</sup>の鉄平<sup>てつぺい</sup>は、仲間<sup>やきゅう</sup>たちと野球<sup>あ</sup>をしていた空き地<sup>ち</sup>がなくな<sup>な</sup>ったせいで、野球<sup>あ</sup>ができなくな<sup>な</sup>った。友達<sup>ともだち</sup>が入<sup>い</sup>った地域の少年野球チームは、母親<sup>はは</sup>にお金<sup>かね</sup>がかかると断<sup>ことわ</sup>られる。エースピッチャーで強打者<sup>きやうだ</sup>だったのに。なにもかもうまくいかず、ヤケ<sup>やけ</sup>になった鉄平<sup>てつぺい</sup>は、学校<sup>がっこう</sup>を休<sup>やす</sup>むようになった。ブラブラしていた鉄平<sup>てつぺい</sup>が出会<sup>であ</sup>ったのは、公園<sup>こうえん</sup>でギター<sup>あか</sup>をひき、歌<sup>うた</sup>を歌<sup>うた</sup>う赤い髪<sup>あか</sup>の兄<sup>あに</sup>ちゃん。彼は、鉄平<sup>てつぺい</sup>にブルース<sup>ブルース</sup>を歌<sup>うた</sup>って聞<sup>き</sup>かせた。



## べんり屋、寺岡の夏。

中山聖子 作  
文研出版

小学校 5 年生の寺岡<sup>みふね</sup>美舟<sup>しょうらい</sup>は、将来<sup>しやうらい</sup>の自分をテーマにした作文<sup>ぶん</sup>に『まっとうに生きる』と書<sup>か</sup>いた。売<sup>う</sup>れない絵<sup>え</sup>ばかりかいて、ろくに家<sup>いえ</sup>にいない画家<sup>えい</sup>の父<sup>ちち</sup>の代<sup>しろ</sup>わりに、家計<sup>けい</sup>を支<sup>さ</sup>えている祖母<sup>そぼ</sup>と母<sup>はは</sup>のたいへんな姿<sup>すがた</sup>を見<sup>み</sup>ているからだ。そんな美舟<sup>みふね</sup>の家<sup>いえ</sup>は、べんり屋<sup>べんりや</sup>。毎日<sup>まいにち</sup>たくさんの依頼<sup>いらい</sup>が来て、夏休<sup>かぎゅう</sup>みには美舟<sup>みふね</sup>も家業<sup>かぎやう</sup>を手<sup>て</sup>伝<sup>でん</sup>う。そのこ<sup>こと</sup>で、将来<sup>しやうらい</sup>に夢<sup>ゆめ</sup>を持<sup>も</sup>てなかつた美舟<sup>みふね</sup>の気持<sup>きもち</sup>ちは変<sup>か</sup>わっていく。



## ぼくたちのリアル

戸森しるこ 著 佐藤真紀子 絵  
講談社

五年<sup>ごねん</sup>のクラスがえであいつ、秋山<sup>あきやま</sup>璃在<sup>リアル</sup>とおなじクラスにな<sup>な</sup>った。ぼくたちの学年<sup>がくねん</sup>で、知<sup>し</sup>らないやつはいないってくらい有<sup>あ</sup>名人<sup>めいじん</sup>。学年<sup>がくねん</sup>イチの人気者<sup>にんきしや</sup>で、スポーツが得意<sup>とくい</sup>で、勉強<sup>べんきやう</sup>も出来<sup>でき</sup>て、顔<sup>かお</sup>もかっこよくて、性格<sup>せいかく</sup>も明るくて、と完全無欠<sup>ぜんぜんむけつ</sup>。そんなすこいやつとおさななじみで、家<sup>いえ</sup>がとなりどうしのぼく。リアルとくらべられることがいやで、クラスが違<sup>ちが</sup>うことを理由<sup>りゆう</sup>にさけていたのに…。そんな新学期<sup>しんがく</sup>、転校生<sup>てんがうせい</sup>がや<sup>や</sup>ってきた。



## 林業少年

堀米薫 作 スカイエマ 絵  
新日本出版社

祖父が林業を営む大沢家の長男・喜樹は、小学五年生。祖父の庄蔵は、お金のかかる林業を続けているため、家族から「金食い虫」と陰口を叩かれているが、林家としての誇りをもっていた。ある日、百年杉の伐採の場に立ち会った喜樹は、その迫力に度肝を抜かれた。「今度はお前が山を育てる番だぞ。」喜樹には、庄蔵の目が、そう言っているように思えた。



## 夜間中学へようこそ

山本悦子 作  
岩崎書店

七十六歳のおばあちゃんが、夜間中学へ通うことになった。孫の優菜は、おばあちゃんと同じ中学一年生になり、二人同時に中学生活が始まった。ある日、おばあちゃんが夜間中学へ行った帰り、階段から落ちて捻挫をした。そのことがきっかけで、優菜はおばあちゃんの送り迎えをするため、夜間中学へ通うことになる。そこは、自分の通う中学校とは、違うところだった。



## 妖怪一家九十九さん

富安陽子 作 山村浩二 絵  
理論社

九十九さん一家は人間たちにまじって、化野原団地のB棟・地下十二階に住んでいます。この団地が建つ前には雑木林が広がっており、大勢の妖怪が住んでいました。ある日、人間たちがやって来て、林の木を伐り払い巨大な団地を作り始めたというわけです。妖怪たちは、驚きました。妖怪の親玉ヌラリヒョンは市役所の市民サービス政策課の窓口に団地建設反対のお願いをしに行きました。



## うちの弟、どうしたらいい？

エリナー・クライマー 作 小宮由 訳  
岩波書店

「弟をたのむわね」そう言って、ママはいなくなった。弟のめんどろを見るのは、あたしじゃなくてもいいはずでしょ？でも、弟が駅の自動販売機<sup>し どうはんばい き</sup>にいたずらをしたり、電車で石を投げたりしていることを知って、いつかたいへんなことになるんじゃないかって心配になる。弟はあたしが何を言っても聞かない。どうしたらいいかわからないあたしの悩み<sup>なや</sup>を聞いてくれたのは、弟の担任のストーバー先生だった。



## おいでフレック、ぼくのところに

エヴァ・イボットソン 著 三辺律子 訳  
偕成社

ずっと犬がほしくてほしくてたまらなかったハルのところへ、まちにまった犬がやってきました。名前はフレック。フレックとの生活は、ハルにとって想像<sup>そうぞう</sup>以上にすてきなものでした。ところが、実はフレックは週末だけレンタルする犬で、両親はこのことをハルにかくしていたのです。月曜日の朝、両親がフレックをペット社へ返してしまったことを知ったハルは、フレックをとりかえすために大きな決心をします。



## 貸出禁止の本をすくえ！

アラン・グラッツ 著 ないとうふみこ 訳  
ほるぷ出版

四年生のエイミー・アンは、内気でいいたいこともいえない女の子。家で妹たちのわがままに、がまんの毎日をごす彼女の楽しみは、図書室で本を読むことだ。ある日、彼女の大好きな本『クローディアの秘密』が、図書室から消えた。「子どもにふさわしくない本」として、貸出禁止にされてしまったのだ。大好きな本をすくうため、エイミー・アンは立ちあがる。みなさんの知っている本が、たくさん登場します。



## だれにも言えない約束

ジーン・ブッカー 作 岡本さゆり 訳 中山成子 絵  
文研出版

第二次世界大戦中のイギリス。十二歳<sup>さい</sup>のエレンは爆撃<sup>ばくげき</sup>におびえながらも、成績や人間関係になやむふつうの日常を送っていた。ところが、お父さんが空襲でけがをして入院し、お母さんは付きそいで、離れた町に行ってしまう。そんなある日、たまたま入った小屋でエレンが出会ったのは、敵であるはずのドイツ兵<sup>てき</sup>！ そのとき、ドイツ軍の爆撃を受け、二人はがれきの中に閉じこめられてしまった。



## テオの「ありがとう」ノート

クロディーヌ・ル・グイック = プリエト 著 坂田雪子 訳  
PHP研究所

生まれつき両足と左手が不自由で、人に助けてもらうことが多い生活しているため、「ありがとう」ということばをたくさん言い続けてきたテオ。12歳<sup>さい</sup>になり、自分が他の人たちよりたくさん「ありがとう」と言っていることに、ふと疑問を感じた。「ありがとう」を言わないですむよう、自分でできることをふやそうといろいろなことに挑戦するテオ。すると、「ありがとう」と言われることがふえてきた。



## 庭師の娘

ジークリート・ラウベ 作 若松宣子 訳 中村悦子 絵  
岩波書店

マリーは草花がだいすきで、庭師になりたいと思っていたが、18世紀後半のオーストリアでは、庭師の仕事は男性のものだった。マリーは父親の希望で修道院で看護の仕事をするようになっていたが、どうしても夢をあきらめられなかった。

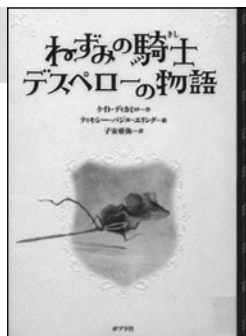
そんな時、12歳の天才作曲家アマデウスと出会う。



## ねずみの騎士デスペローの物語

ケイト・ディカミロ 作 子安亜弥 訳  
ティモシー・バジル・エリング 絵  
ポプラ社

お城のかべのおくで誕生した、ハツカネズミのデスペローは、変わったネズミでした。図書室でことばにふれ、大きな耳はあまい音楽を聞いていたのです。ある日、音楽にさそわれて穴の外にでてしまったデスペローは、ピー姫にみつかってしまいます。それは、ハツカネズミのおきてをやぶるものでした。ハツカネズミ会議で、地下牢送りとなったデスペローはそこで、大変なくらみを知ることとなります。



## 発電所のねむるまち

マイケル・モーパゴ 作 杉田七重 訳  
ピーター・ベイリー 絵  
あかね書房

友達につきとばされてけがをしたマイケルを手当してくれたのはミセス・ペティグルー。海辺の湿地に置いた客車にすむ、ペティグルーさんと親しくなったマイケルは、彼女のロバに乗り、犬たちと湿地をかけまわった。ところがある日、この“ペティグルーさんの湿地”に巨大な原子力発電所の建設計画が持ち上がる。



## ペーパープレーン

スティーブ・ワーランド 作 井上里 訳  
小峰書店

十二歳の男子ディランは、父親とふたりぐらし。学校の授業で紙ひこうきを作って、飛ばすことの楽しさを知り、紙ひこうきジュニア選手権の全国大会をめざすようになります。父親とけんかをしたり、いじめっ子と対決したりしながら、ディランは、紙ひこうきを研究し続けます。



本の最後に＜紙ひこうきの折りかた＞が付いています。

## ヘリオット先生と動物たちの8つの物語

ジェームズ・ヘリオット 作 村上由見子 訳 杉田比呂美 絵  
集英社

おうしんさき 往診先の農家で目にした牧羊犬の子犬ジップとスウィー  
シードッグ プ。二匹は親友で、とても仲よくじゃれあっていた。飼  
主によると、ジップにはひとつおかしいところがある。それ  
はまったく吠えないことで、生まれてから一度も吠えた  
声<sup>ほ</sup>をきいたことがないという。ところが、それから何ヶ月  
かたったある日、ジップがたった一度「ワン！」と吠えた。（『たった一度のワン！』  
より）獣医<sup>じゅうい</sup>のエリオット先生と動物たちのお話が、8つはっています。



## ぼくたちとワッフルハート

マリア・パル 作 松沢あさか 訳 堀川理万子 絵  
さ・え・ら書房

9さい歳のトリレとレーナはとなりどうし。レーナはと  
びっきりおもしろいことをいつも思いつく。楽しいけ  
れど、おとなたちにおこられるのはトリレ。トリレは  
レーナを一番の親友と思っているのだが、レーナはど  
う思っているんだろう。

小さな入り江<sup>い え ふだい</sup>を舞台に、トリレとレーナの楽しい毎日を書いたお話です。



## ぼくたち負け組クラブ

アンドリュー・クレメンツ 著 田中奈津子 訳  
講談社

アレックは、本を読むことが大好きな6年生です。両親<sup>りょうしん</sup>  
の帰りがおそいため、「放課後プログラム」に登録しました。  
ここでは、いつでも好きなクラブに参加することができます  
ですが、アレックが大好きな本を読むことができるクラブは  
ありません。そこで、アレックは本を読むことができる「負け組クラブ」を作りました。

『グレッグのダメ日記<sup>につき</sup>』や『ハリー・ポッター』など、たくさんの本が出てきます。



## ミンのあたらしい名前

ジーン・リトル 著 田中奈津子 訳  
講談社

あか ぼう ころに捨てられ、何でも里親がかわった 11 歳の少女ミン。彼女は無表情の中に、自分の気持ちを隠してしまうようになっていた。四度目の里親イーニッドに、もう引き取りたくないと言われたところに現れた、小児科の医師、ジェス。彼女と一緒に暮らし始めたミンは、自分を信じてくれるやさしい人達と、あたたかい日々を過ごす。しだいに、ミンの閉ざされていた心は…。



## 床下の小人たち

メアリー・ノートン 作 林容吉 訳  
岩波書店

イギリスの古い家の床下に、借り暮らしの小人の一家が住んでいました。ポッドとホミリーの夫婦、そして娘のアリエッティです。一家は、人に見られないようにしながら、上に住む人間のものをいろいろ借りてきて生活していました。ところが、ある日、アリエッティが人間の男の子に姿を見られてしまいました。小人たちの冒険のシリーズは、他に4冊あります。



## ワンダー

R.J. パラシオ 作 中井はるの 訳  
ほるぷ出版

生まれつき顔に障害があるオーガストは、10 歳まで家でおかあさんに勉強を教わっていた。初めて学校に通うことになったオーガストの顔を見て、生徒たちは悲鳴をあげ、じろじろながめ、やがて避けるようになった。それでもオーガストの話を聞いて、理解してくれる同級生は少しずつ増えていった。オーガスト、姉オリヴィア、親友ジャックなど、いろいろな人の視点から書かれたひとりの男の子の物語。



## アンネの木

イレーヌ・コーエン＝ジャンカ 作  
マウリツィオ・A. C. クゥアレロ 絵 石津ちひろ 訳  
くもん出版

第二次世界大戦中、ユダヤ人がナチス・ドイツに不当な迫害を受け殺されたこと、その一人に「アンネ・フランク」という少女がいたことを聞いたことがあるでしょう。アンネがナチスから身を隠していた隠れ家の外に、一本のマロニエの木がありました。この一本の木が、一歩も外に出られない少女に、自然の恵みと安らぎと希望を与えていました。一本のマロニエの木が、あの時代を語ります。



## ガザー戦争しか知らないこどもたちー

清田明宏 著  
ポプラ社

中東、シナイ半島の北東部、東地中海に面した、小さな土地。8メートルもの高さの壁などに囲まれた、移動の自由が奪われた都市。それがガザだ。ガザをふくむこの地域では、1948年から、ずっと戦争が続いている。ここでは、6歳以上のこどもはみな、3回以上の戦争を経験している。「戦争しか知らないこどもたち」だ。ガザのこどもや、街の様子を写真で紹介。



## 靴屋のタスケさん

角野栄子 作 森環 絵  
偕成社

時計屋さんが越して、からっぽになったお店。そのお店にかんばんがついた。「タスケ靴店 お靴を直したり、作ったりします」。お店のなかにいれてもらったわたしは、タスケさんの仕事を見たり、話したりするうちに、自分も赤い靴を作ってもらいたくなった。でも、できあがった靴をはいたのは1度だけ。タスケさんは兵隊へ、わたしの靴は空襲で焼けてしまった。最後がふしぎなお話です。



こうぎょく  
紅玉後藤竜二 文 高田三郎 絵  
新日本出版社

りんごの季節になると、父はきまってぼくらにおなじ話を語り聞かせた。1945年秋、戦争が終わった年にも、父のりんご畑では、赤いりんごがわんさとみのった。いよいよ収穫というころ、りんご畑がおそわれた。日本人ではなかった。川向こうの炭鉱で働かされていた朝鮮と中国の人びとの群れだった。父のとった行動は…。



## さがしています

アーサー・ビナード 作 岡倉禎志 写真  
童心社

とけいのしゃしんが、かたりかけます。「おはよう おはよう ございます」ごはんとう豆のつまったレイコちゃんのおべんとうばこは、レイコちゃんがいえなかった「いただきます いただきます」を、いまもさがしています。1945年8月6日のあさ8時15分 広島。平和記念資料館にある展示物が、いろいろなことを教えてくれます。



## 戦場のオレンジ

エリザベス・レアード 作 石谷尚子 訳  
評論社

内戦で破壊されたベイルートの町で暮らす、十歳のアイシャ。父親は仕事をさがしに外国へ、そして母さんは爆撃で行方不明。家を無くしたアイシャは、おさない弟たちとおばあちゃんと、元はアパートだった建物に、他の避難民と一緒に暮らしている。ところが、たよりにしていたおばあちゃんまでたおれてしまった。おばあちゃんを助けるには、グリーンラインの向こう側まで薬をもらいに行かなければならない。



## パパ・ヴァイトー ナチスに立ち向かった盲目の人ー

インゲ・ドイチュクロン 作  
ルーカス・リュエゲンベルク 絵 藤村美織 訳  
汐文社

ナチスがドイツを支配していた第二次世界大戦のときのこと。ユダヤ人はユダヤ人というだけで、好きなことができなかつたり、収容所へ連れていかれたりしました。そんな時、ドイツ人「パパ・ヴァイト」さんがユダヤ人の目の見えないう人たちを必死で守りました。何人もの人たちが、彼のおかげで生きのびたのです。



## パンプキン！ー模擬爆弾の夏ー

令文ヒロ子 作 宮尾和孝 絵  
講談社

夏休み、いとこのたくみが大阪にやってきた。無口で変わり者のたくみは、着くなり、町の石碑を調べ始めた。石碑には、「模擬原子爆弾投下跡地」と書かれている。アメリカは戦争中、本物の原子爆弾を落とす前に、原爆と同じ形の模擬原爆、通称「パンプキン爆弾」を作って、目的の場所に落とす練習をしたという。日本のあちこちに落とされたパンプキン爆弾。いったいどんな爆弾だったんだろう？



## ミスターオレンジ

トゥルース・マティ 作 野坂悦子 訳 平澤朋子 絵  
朝北社

1943年のニューヨーク。八百屋の息子のライナスは、兄が戦争に行くことになり、配達をまかされるようになった。初日、オレンジを1箱注文した家に配達に行き、ひとりの画家と出会う。ライナスは、名前を知らないその人を「ミスターオレンジ」と呼び、親しくなっていく。ナチスが支配するヨーロッパから逃げてきた実在の画家と、少年の出会いの物語。



## や 焼けあとのおにぎり

うるしばらともよし 作 よしだるみ 絵  
国土社

ろくねんせい 六年生のキヨシは、とうきょう ふくしま 東京から福島のおばあちゃん  
いえ そかい の家に疎開していた。せんそう 戦争が終わったが、りょうしん 両親から  
れんらく の連絡はない。キヨシはひとりて東京に行くことに  
した。おばあちゃんはたんすの奥にしまってた大切なきもの、のうか、こめと  
りかえ、五つのおにぎりを持たせてくれた。よきしゃ 夜汽車にのってたどりついたわが家  
のあたりは、しゅうせん 戦後の食べものがない時代のお話です。



## 図書館のトリセツ

福本友美子 著 江口絵理 著 スギヤマカナヲ 絵  
講談社

図書館とはどんなところでしょうか。みなさんの家の近くに図書館はありますか。この本は図書館を使うときの悩みや不思議を解決してくれる本です。おもしろい本をさがすにはどうするの？わからないことがあった場合は？本はどのようにならんでいるの？レファレンスってなに？さあ、この本を読んで図書館探検開始です。



じんじや てら ちか にほんじん こころ  
神社・お寺のふしぎ 100 ～すぐ近くにある「日本人の心のふるさと」のなぜ～

田中ひろみ 文 藤本頼生 監修  
東京都仏教連合会 監修 偕成社編集部ほか 写真  
偕成社

新しい年の初めにお参りすることが多い神社やお寺。みんなはどこへ行きますか。入り口にある「手水舎」は手を洗うところ。なぜ 洗うところがあるのか、知っていますか。神社の入り口にある「鳥居」にはどんな意味があるのでしょうか。この本を読むとわかります。さて、この表紙の神社、知っていますか。（ヒントは市内の神社）



## ここで土になる

大西暢夫 著  
アリス館

熊本県五木村の大イチョウは、何百年も前から村の風景を見守ってきました。美しい川や山、人々のにぎやかなわらわ声、子どもたちが遊ぶ様子がそこにはありました。でもある時、ダムを作る計画によって人々は村を出て行きました。村にたった二人のこった尾方さん夫婦と、大イチョウの暮らしを写真でつづったお話です。



## 髪がつなく物語

別司芳子 著  
文研出版

「ヘアドネーション」ということを聞いたことがありますか？長くのばした自分の髪を寄付することです。髪は、ていねいに処理をされて「医療用ウィッグ」として、病気やその治療によって髪を失ってしまった子どもたちのために使われます。ボランティアとして参加した子どもたち、ウィッグを受け取る子どもたちの視点を通して活動を紹介します。



## う こそ す かん え ど な が や あさひるばん え どう こそ 売 声 図 鑑 1 江戸の長屋の朝昼晩 -江戸売り声でタイムトリップ！-

宮田章司 文 瀬知エリカ 絵 市川寛明 監修  
絵本塾出版

物売りのいい声がとびかう、江戸の長屋にタイムトリップ。日本でたったひとりの江戸売り声芸人、宮田章司さんがご案内します。朝に聞こえてくるのは「アサリ売り」の売り声「アサリー シーザーミー よーいっ」や「納豆売り」の「なーっとなっとなっとなっとなー みそ豆ー」。昼のおかみさんたちの井戸ばた会議、夜のお祭りの屋台など江戸の町で暮らす人々のくらしがわかります。



## にじゅうしせつき 二十四節季のえほん

西田めい 文 羽尻利門 絵  
PHP 研究所

二十四節季ということばをきいたことがありますか？これは1年間の太陽の位置を24等分してそれぞれの区分点となる日に「立春」「啓蟄」「夏至」といった天候や自然の変化を表す名前をつけたものです。今でも多くの季節行事がこれを基準に行われています。二十四節季には、自然とともにくらした昔の人びとのちえがいっぱいいつまっています。



## わか な いさむ マリモを守る。ー若菜勇さんの研究ー

千葉望 文 荒谷良一 写真  
理論社

絶滅の危機にある北海道阿寒湖のマリモを保護するために、研究者の若菜さんはやってきました。スキューバ・ダイビングの資格を取って自分で湖の調査をしたり、マリモのDNA鑑定をしたりして、科学的な証拠を集めます。マリモとたくさんの動物や植物、そして人が関わりあう、阿寒湖の秘密にせまる写真絵本です。



## となりに生きる動物たち

共同通信社写真部 著  
講談社

あなたの家の近くには、どんな動物がいますか？ネコ、イヌ、カラス？あまり思い浮かばない人もいかもしれませんね。でも、探してみると、意外にたくさんの動物たちに出会えるかもしれません。住宅街のレストランに毎晩あらわれるタヌキの家族。夜の自動販売機にはりついているアマガエル。人間のとなりに生きる、27種の動物たちを写真で紹介した本です。



## はじめましてモグラくんーなぞにつつまれた小さなほ乳類ー

川田伸一郎 著  
少年写真新聞社

みなさんはモグラを見たことがありますか？ほとんど土の中にいるので、モグラにはなぞがいっぱい。どんな生き物？目に見えるの？トンネルの中はどうなっているの？この本では、モグラの一日やしっぽの役割、食事の方法、子育てなど、モグラ専門の研究者がなぞに満ちた生態を、ていねいに解説しています。また、最後にモグラ情報館のページがあって、どこに行けば会えるかもわかります。



## トイレをつくる未来をつくる

会田法行 写真・文  
ポプラ社

東ティモールでは、これまで、おおぜいのひとが川や森の中、自宅の裏などで、うんちやおしっこをしていました。そのため、子どもたちがコレラなどの病気にかかり、おおくのひとが命を落としてきました。屋外でうんちをする習慣が、子どもたちの健康に影響をあたえることを学んだ大人たちは、清潔なトイレづくりに立ちあがりました。トイレの扉は、子どもたちの未来につながっています。



## タマゾン川ー多摩川でいのちを考えるー

山崎充哲 著  
旬報社

アロワナ、ピラニア、グッピー、プレコ…、日本の川に捨てられる外国の魚たち。都会の真ん中を流れる多摩川に、アマゾンの肉食魚やカラフルな熱帯魚が泳いでいるという「タマゾン川」現象。多摩川がタマゾン川となることが、生き物たちにとって、どのような問題があるのかをいっしょに考えていきます。



## かき氷 ー天然氷をつくるー

細島雅代 写真 伊地知英信 文  
岩崎書店

天然氷でつくられたかき氷を食べたことがありますか？自然の寒さがつくった天然氷は、明治時代から現在までむかしながらのつくり方で、そのほとんどが人の手間をかけてつくられます。この本では、どのように天然氷をつくっていくのか、やり方や使う道具などを写真で紹介します。



## しあわせの牛乳 ー牛もしあわせ！おれもしあわせ！ー

佐藤慧 著 安田菜津紀 写真  
ポプラ社

岩手県にある「なかほら牧場」では、今はめずらしい「放牧酪農」がおこなわれています。「放牧酪農」とは、牛舎ではなく外の放牧地で牛を飼う酪農のことです。自由に自然の草を食べてのんびりすぐす牛の牛乳は、ふつうに売られているものよりもずっとおいしいと評判です。けれど、「なかほら牧場」をつくるのは簡単なことではありませんでした。牧場長の中洞さんの何十年にもわたる挑戦のお話です。



## ブナの森は宝の山

平野伸明 文 野沢耕治 写真  
福音館書店

ブナの森は、水の森。森の中にはたくさんの沢が流れ、いたる所にわき水がある。森と水が豊かだと、多くの生きものがそこで生活をとにする。ブナのたくましい姿、きれいな草花、鳥の声、けもの気配、川のせせらぎ…。秋田県奥森吉にあるブナの森の春夏秋冬の美しさと、森がはぐくむ「いのち」の豊かさをとらえた写真集。



※このリストで紹介している中には、絶版等で購入できない資料もありますが、  
西東京市図書館では借りることができます。

## で・あ・い 2 ー 小学生の本のリストー

令和5年3月 発行

編集・発行 西東京市図書館  
〒188-0012 西東京市南町五丁目6番13号  
電話 042-465-0823  
ホームページ <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>

印刷・製本 株式会社御幸印刷

で・あ・い 2

